

### 3 漁業紛争関係諸事件

七 日ソ外交関係

362 昭和8年4月18日 内田外務大臣より 在ソ連邦大田大使宛(電報)

#### 漁業紛争予防に関する措置方について

本省 4月18日後7時20分発

第九七號

本年漁期ニ當リテハ尚未解決案件存スルモ客年ノ漁区安定取極ニ依リ大体良好ナル空氣釀成セラレアリ又堪察加方面ノ公海漁業ニ於テモ近年漸ク紛争事件減少シ來リ各工船ハ本年モ「ソ」聯邦ノ距岸三海里ヲ侵スガ如キコト無キ様互ニ嚴ニ相戒メ居リ此ノ矣ニ付テハ我關係官憲側ニ於テモ嚴重警告ヲ加ヘ居ル次第ニ有之我方トシテハ此ノ空氣ヲ助成シテ本年漁期モ平穏裡ニ経過セシメ度ク右ハ両国々交ノ上ヨリモ此際甚夕望マンキ事ト思考シ居ル処「ソ」側地方官憲ハ從来兎角交渉中ノ諸案件ニ付其ノ經緯ヲ無視シ當業者ノ合理的申請ニ對シテモ好意的考慮ヲ加フルコト少ク又現場官吏中ニハ些少ノ事ヲモ事<sup>(殊)</sup>更摘發セントスルガ如キ態度ヲ以テ臨ム者尠カラズ或ハ濫リニ邦人ニ對シ發砲シタル事

例モアリ(客年貴電第四四六号後段参照)當業者ニ對シ多大ノ不安ヲ與ヘ居ルニ付往電第八七号太平洋漁業規則ノ如キ其ノ実施ヲ差控フベキハ勿論相互漁業尊重ノ趣旨ニ依リ現場ニ於ケル事件發生ヲ防止シ或ハ之ガ円満解決ヲ計ルガ為地方官憲乃至現場官吏ヲシテ其ノ趣旨ヲ諒解セシムル様「ソ」側ヲシテ豫メ措置セシメ置キ度又我領事館出張貟ニモ隔意無キ接觸ヲ保持セシメ成ルベク些少ノ事ハ現場ニテ解決シ得ル様致度就テハ引続キ行ハルベキ諸案件交渉ハ交渉トシテ別ニ一般的ニ右ノ趣旨「ソ」側ニ御申入ノ上出来得ベクハ其ノ諒解ヲ取付置カル、様御配慮アリタシ浦潮ニ轉電シ哈府ニ暗送セシム

363

昭和8年4月23日 在ソ連邦大田大使より

#### 漁業問題に関する酒匂・カズロフスキー間会談について

モスクワ 4月23日後発  
本省 4月24日前着

第二一六號  
貴電第九七號ニ關シ

二十二日酒匂<sup>(カズ)</sup>ハ「カズロフスキー」ヲ往訪ノ上過日「カラハン」並「カズ」ヨリ漁業問題ニ付テハ極メテ圓滿ニ經過シ居リ本年モ左シタル問題起ラサルヘントノ言ヲ聞キ同慶ニ感シ居ル次第ナルカ尙未解決ノ案件アリ之等ニ付テハ今後交渉ヲ續クヘキハ勿論ナル處此ノ際特ニ蘇側ヨリ好意的了解ヲ得度キモノアリトテ右貴電ノ趣旨ニ基キ大要

(一)公海漁業ニ付蘇聯邦ノ沿岸三浬ヲ侵ササルヘキ點ニ關スル我方ノ措置

(二)蘇側地方官憲ニ於テ從來不當ノ措置アリタル點ヲ指摘シ本年ハ斯ルコト無キ様嚴重ニ訓令アリ度キコト

(三)我方トシテハ緒方領事及野口書記生ヲ出張センメ現場ニ於ケル事件發生ヲ防止シ何等案件發生ノ場合ハ地方的ニ之カ圓滿解決ヲ計ラシメントス蘇側モ同趣旨ニ依リ同領事等ニ對シ其ノ職務執行上ニ便宜ヲ供與スルハ勿論隔壁無キ接觸ヲ保持スル様特ニ地方官憲ニ訓令ヲ發セラレ度キコト

(四)本年問題力起ルトセハ懸案中ノ太平洋漁業規則ナルヘキ

ニ付大局上ノ見地ヨリ蘇側ニ於テ之力實施ヲ差控ヘラレ度キコト

等ニ付縷々懇談セル處「カズ」ハ本年度漁業ハ昨年度ヨリモ更ニ一層圓滿ニ經過セシメ度ク切望シ居ル次第ナリト前(提)シ右(一)三浬問題ニ關シテハ先年來交渉セン成行アリ蘇側ヨリ具體的提案ヲ爲シ居ルニ拘ラス未タ日本側ヨリ回答ニ接セサル次第ナルカ本件ニ付テハ今後引續キ交渉ヲ行フコトト爲シ度ク其ノ建前ノ下ニ蘇側ニ於テハ本年殊更問題ヲ起スカ如キコト無キモノト了解シ

(二)ニ付テハ從來蘇側トシテハ日本當業者ノ申請ニシテ合理的ト認メラルモノニ對シテハ充分好意的考慮ヲ加ヘ居ル積リナルニ尙不滿ナリトセラルハ遺憾ナルカ日本側ノ趣旨ハ尤モト認ムルニ付爲念地方官憲ニ訓達スヘシ(三)緒方領事ノ人格及其ノ職務執行振ニ付テハ平素ヨリ敬意ヲ表シ居ルト共ニ同領事ニ於テハ地方官憲中ニ知合ノ者多カルヘク從テ其ノ出張ハ非常ニ喜ハシキコトナリ蘇側モ中央部ヨリ適當ノ人物ヲ現場ニ出張セシムル筈ニ付根本的主義上ノ問題ハ別トシ可成現場ニテ案件ノ解決ニ努ムルコトト致度從テ日本側ノ申出通り地方官憲へ訓達スヘシ(四)太平洋漁業規

則ナルモノハ既存ノ諸規則ヲ綜合セルモノニ過キス從テ本年度ニ於テ懸念セラルルカ如キ事態ノ發生ヲ見ルヘシトハ想像シ難シ該規則ヲ實施スルヤ否ヤト問ハルルトセハ只正シク實施スヘシト答フルノ外無シ云々ト述ヘタルカ右最後ノ點ニ關シ酒匂<sup>(匂)</sup>ハ假ニ日本政府ニ對シ「カズ」カ該規則ヲ正シク實施スヘシト答ヘタル旨文字通リニ報告ストセハ同政府ヨリ又復長文ノ訓電アルナルヘシ然シ自分ハ蘇側トシテハ本年度漁業ヲ昨年度ヨリモ一層圓滿ニ且事件ヲ起スコト少キ様措置スヘシトノ「カズ」ノ言ヲ信賴シ該規則ノ爲不安ヲ感スル要無キモノト結論シ度右ニテ可ナルヤト述ヘタル處「カズ」ハ該規則中昨年問題トナリシ、二ノ事項ニ付テハ田中丸ト「ゴロフスコイ」トノ間ニ話合成立セシヲ以テ本年ハ最早何等問題無キ筈ナリト答ヘタルニ依リ酒匂<sup>(匂)</sup>ハ果シテ然リトセハ結構ナルモ自分ノ承知スル所ニ依レハ本年競賣ニ際シ極東漁業長官ハ我當業者ノ一人ニ對シ本年度ニ於テハ沖出ニ關スル條項ノミハ之ヲ實施シ度シト告ケタル趣ニテ我當業者等ハ右ニ付多大ノ不安ヲ懷キ居ル由ナリト話セルニ「カズ」ハ客年實施セサル可カラストノ理由無キモ右ニ付テハ何項ヲ本年實施セサル可カラストノ理由無キモ右ニ付テハ何

モ是等ニ付テハ更ニ交渉ヲ重ネタル上電報ス可シ浦潮ヘ轉電セリ

364 昭和8年5月26日

在ベトロパウロフスク野口(芳雄)書  
記生より  
内田外務大臣宛

ウスチ・カムチャトスクにおけるソ連側の警備取締り状況について

本機密第二号

(6月13日接受)

昭和八年五月二十六日

ウスチ・カムチャトスク出張

外務書記生 野口 芳雄(印)

「ウスチ・カムチャトスク」地方ニ於ケル「ソ」側ノ警備

「ソ」側ノ警備取締状況ニ関シ報告ノ件

「ウスチ・カムチャトスク」地方ニ於ケル「ソ」側ノ警備取締状況ニ関シテハ本月十一日小官到着以來注意中ナリシカ小官滯泊中ノ日魯漁業會社第二工場所在地ト當地方行政中心地「ウスチ・カムチャトスク」村トハ約十五杆ノ距離アリ「カムチャトカ」河解氷ノ前後ハ両地間ノ連絡困難ニ

等カノ事情アルヤモ計リ難キニ付一應當局ニ問合スコトト爲ス可シト答ヘタルニ依リ酒匂<sup>(匂)</sup>ハ沖出ニ關スル事情ヲ説明シタル上若シ蘇側ニ於テ本年當該條項ノ實施ヲ敢テスル力如キコトアラハ日本輿論ハ蘇側ニ於テ又復日本人不平ヲ増スモノナリト非難シ大局上甚タ面白カラサル空氣ヲ釀成スル虞アリト認ムルニ付當該條項ハ勿論日本人ノ不平ヲ増ス力如キ條項ハ一切本年實施セサル様措置アランコトヲ切望スト述ヘタルニ「カズ」ハ自分ニ於テハ與フ限リノ盡力ヲ爲ス可ク右様了解シ置カレ度シト答ヘタル趣ナリ  
以上ノ會談ニ依リ酒匂<sup>(匂)</sup>ハ蘇側ニ於テハ目下ノ處太平洋漁業規則ヲ本年度實施スル意図無キモノト看做セル趣ナルカ尙試ミニ政府ノ訓令ハ以上ノ諸點ニ付文書ヲ以テ蘇側へ申入レヲ爲ス可キ趣旨ナルヤモ計リ難シト述ヘタルニ「カズ」ハ文書ト爲サルニ於テハ復又古キ書類ヲ取出シ是等ヲ羅列シテ論議スル結果トナル可ク甚タ面白カラスト答ヘタルニ依リ酒匂<sup>(匂)</sup>ハ然ラハ兩人(問)ニ於ケル口頭ノ了解ト爲シ置ク方適當ナリト考ヘラルヤト反問セルニ「カズ」ハ然リト答ヘタル趣ナリ  
尙酒匂<sup>(匂)</sup>ハ貴電第九三號ノ諸點ニ付テモ一通り話合ヲ爲セル

シテ村内ノ事情ヲ知ルコトヲ得サリキ偶本月十九日同河解氷シ航行可能トナリタルニ付小官ハ即日地方官憲ニ對スル挨拶ノ為メ「ランチ」ニ搭乗同村ニ出向キタルカ地方官憲ノ主腦部ハ解氷ト共ニ孰レモ冬期中連絡困難ナリシ上流地方ニ出張不在中ニテ「ゲ、ペ、ウ、」国境監視署長ト會談ノ機會ヲ得ス其ノ帰任ノ通知ヲ得テ後更ニ往訪スヘキ旨ヲ約シテ帰還セリ斯くて「ゲ、ペ、ウ、」隊長ノ態度、取締方針等ヲ察知スルコトヲ得ス又村内ヲ一巡シタルノミニテハ警備ノ狀況ヲ推察シ得サルヘキハ勿論ナルカ日魯漁業會社送込船ノ當地到着ノ際ニ於ケル「ゲ、ペ、ウ、」ノ取締振並ニ村内巡視ノ際小官ノ受ケタル印象ニ拋レハ「ソ」聯邦ノ他ノ各地ニ比シ嚴ナルモノトモ思ハレス日魯漁業會社送込船ノ當地到着ノ際ニ於ケル「ゲ、ペ、ウ、」ノ取締番人(露人)及多年引続キ此地ニ來往セル日魯漁業社員ノ言ニ徵スルモ大体例年並ノ警備振ナリト見受ケラル之ヨリ先本月十五日「ゲ、ペ、ウ、」勘察加國境防備隊在「ウスチ・カムチャトスク」監視署ハ別添ノ如キ邦文ヲ以テ印刷セル告示數十枚ヲ「ウス、カム」地方三ヶ所ノ日魯工場ニ配達シ來リ其ノ内若干ヲ函館ニ轉送シ當地方ニ來航スル日本船舶ニモ配布セラレタキ旨申添フル処アリタリ右

告示ハ一九二七年六月十五日附聯邦中央執行委員會決定「ソヴィエト」聯邦國境警備令ノ抜萃ヲ内容トシ一九三一年六月四日附ヲ以テ哈府當局力極東地方沿國境地ノ住民ニ通達シタルモノノ如ク夫レ自体ハ新ナル規定ヲ意味スルモノニ非サルモ「ゲ、ペ、ウ、」カ此ノ種ノ告示ヲ通達シ來リ然モ邦文ヲ以テ印刷ニ附シタルカ如キハ從來例ヲ見サル處ナリ右ニ閔シテハ「ゲ、ペ、ウ、」側ニ於テ別段ノ魂胆アルモノトハ思ハレサルモ爾後ノ取締振ニ付テハ引続キ注意中ナリ

右不取敢報告ス

~~~~~

365 昭和8年6月17日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

富美丸漁夫被害事件に關しソ連側中央當局より必要の訓電を發するよう至急交涉方訓令

本省 6月17日発

暗第一七四號

堪察加方面出動中ノ大刀風ヨリノ報告ニヨレハ同地東岸「クロノツキ」岬附近出漁中ノ大同漁業會社(沖取)附

「ウスカム」其他關係地方官憲ニ大至急必要ノ訓電ヲ發スル様御交渉相成リ結果折返シ回電アリタシ尙右「ソ」大使館トノ交渉後海軍ト打合ノ結果野口ハ中央ノ許可アリタル後「ウスカム」ヨリ出發スルコトトナリタルニ付右御含置アリタシ

ペトロ及浦潮ニ轉電シ浦潮ヨリ哈府ニ暗送セシム

~~~~~

366 昭和8年6月19日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

富美丸漁夫射殺事件に關し嚴重抗議方訓令

本省 6月19日後8時20分発

第一七六號

往電第一七四號ニ閔シ

本大臣發「ペトロ」宛電報第一號ノ通漁夫三名ハ射殺セラレ居リタルコト判明セルニ付貴官ハ「ソ」政府ニ對シ右ノ事実ニ付嚴重抗議セラルヘト共ニ責任者ノ処罰及被害者ノ賠償要求ノ權利ヲ保留スル旨申入レラレ度尚本大臣發「ペトロ」宛電報第二号ニ閔シ貴地ニ於テモ御交渉相成結果面電アリ度シ本件ハ當方ニ於テモ不取敢在京「ソ」聯邦大使

屬獨航船富美丸ハ十四日來ノ荒天及機械故障ノ爲北緯五十四度二十九分東經百六十一度十六分距岸千米附近ノ地點ニ避難ノ止ム無キニ至リ十五日漁夫三名ハ飲料水ヲ求ムル爲傳馬船ニテ陸岸ニ向ヒタル處陸岸ヨリ四五十發ノ射擊ヲ受ケ富美丸モ亦亂射セラレタル爲富美丸ハ傳馬船ヲ殘シテ避難セル趣ナルガ右三名ノ漁夫ノ生死不明ニテ事急ヲ要シ且交通不便ノ地ナルニ鑑ミ現場附近ニ在ル太刀風ヨリ士官ヲ上陸セシメ事情ヲ調査セシメ度キ趣旨ヲ以テ特ニ右許可ノ取計方海軍省ヨリ申出アリタルニヨリ不取敢在京「ソ」聯邦大使館ニ申入レタルガ偶々野口「ウスカム」ニ歸還シツツアル報ニ接シ海軍省ト打合ノ上更ニ同大使館ニ土官派遣ヲ取止メ野口ヲ右驅逐艦ニテ現場ニ派遣スルコトトスベキニ付同官上陸及取調等ニ對シ便宜供與方及同官應接方現場官吏ニ指令スル様交渉シタル處同大使館ニテハ軍艦ノ寄港等ニ付テハ中央ニ請訓ノ要アル旨答ヘタルニ付我方トシテハ「ソ」側ノ好意的回答アルベキ期待ノ下ニ驅逐ニテ野口ヲ出張セシムルコトニ取計フ故大使館ヨリモ右許可スル様意見ヲ附シテ請訓セラレ度キ旨申入レ置キタリ就テハ貴地ニ於テモ右至急當局ニ御申入ノ上「ペトロ」

館ニ申入レ置ケルニ付右申添フ

「ペトロ」及浦潮ニ轉電シ浦潮ヨリ哈府ニ暗送セシム

367 昭和8年6月20日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

富美丸事件顛末先方への説明方に関し訓令

本省 6月20日発

暗第一七九號

往電第一七六號ニ閔シ

海軍側情報ニ依レハ十七日太刀風ノ警戒隊ハ富美丸ニテ現場ニ上陸「オリガ」岬北東方一二浬ノ海岸ニテ傳馬船及三名ノ死体ヲ發見收容セル處各死体共彈丸四、五發命中シ傳馬船ニハ三十餘ノ彈痕アリタルニ付現狀ノ模様ヲ撮影セル力同所附近ニハ漁屋一軒アルノミニテ加害者ハ遁走發見セラレサルモ證據蒐集ニ努力ノ結果隊長外兵四名ノ駐屯セリト認メラル「ゲペウ」宿所ニ於テ小銃、彈藥、隊長ノ寫真等ヲ押收セル外鎖鑰セル室内ニ於テ「クロノツキイ」分遣隊長「クージン」ナル者ヨリ「ペトロ」國境守備隊長ニ宛テ「六月十五日午後三時國境侵犯者抑留ニ際シ武器使用

ノ結果日本人三名ヲ殺害セル旨」記載セル發送未済ノ報告書一通ヲ發見押收セル由ナリ右ニ付大湊要港部司令官ヨリ太刀風ニ對シ十九日限リ陸上ヨリ撤退シ何分ノ命アル迄附近海上ニ在リテ監視ニ任スヘキ旨命令セル趣ナリ

右情報ハ必要ノ場合「ソ」側ニ適宜説明セラレ差支無ク尤モ其ノ場合ニハ海軍側ニ於テ特ニ軍艦ヲ領海内ニ入ルルコトヲ避ケタルコト及人命救助ヲ目的トセル緊急已ムヲ得サル措置トシテ兵員ヲ上陸セシムルニ至レル次第ヲ併セ説明アリ度

浦潮、「ペトロ」ニ轉電シ「ペトロ」ヨリ野口ニ轉電浦潮ヨリ哈府ニ暗送セシム

368 昭和8年6月21日 在ソ連邦大田大使より 内田外務大臣宛(電報)

富美丸事件に關しソ連側への申入れ並びに応酬振りについて

モスクワ 6月21日後発  
本省 6月22日前着

第三五〇號

### 貴電第一七六號ニ關シ

右ハ十九日夜接到セルモ二十日ハ「ソコリニコフ」差支ノ爲會見出來サリシニ依リ二十一日「ソ」ヲ往訪ノ上富美丸ノ件ニ付其後ノ情報ニ依レハ關係漁夫三名ハ蘇官憲ノ爲射殺サレ居ルヲ發見セシ趣ニテ今回本國政府ヨリ右事實ニ對シ蘇政府ニ嚴重抗議シ同時ニ蘇側責任者ノ處罰及被害者ヘノ賠償要求ヲ留保スヘキ旨電訓ニ接シタリトテ貴電第一七六號ノ趣旨ヲ露文ニ認メタル手控ヲ手交シ次テ野口書記生ノ出張ニ關シ本日極東部長代理「ユシケウイチ」ヨリ酒匂(名)參事官ヘノ言明ニ依レハ蘇政府ハ驅逐艦ノ寄港ニ付テハ應諾シ難キモ他ノ船舶ナラハ差支ナシトノコトナルカ幸ヒ附近ニ金鷄丸アルヲ以テ之ニ依ルコトト爲シ度キニ付此旨地方官憲ヘ至急手配アリ度ク尙現場ニハ蘇側官憲居ラサル模様ニ付「ウスカム」ヨリ出張セシムルコトトシ出來得レハ野口ト同行セシメラレ度シトテ貴電合第一一六九號及合第一一七〇號ノ次第委細申入レタルニ「ソ」ハ過日本件ニ付酒匂(名)氏ヨリノ申出アルヤ直ニ出先官憲ニ對シ事情調査報告方嚴命シ置キタルモ未タ回電ニ接セス從テ目下ノ處本使申入ノ次第ヲ肯定若ハ否定スルヲ得サル立場ニアリ故ニ今直

ニ日本側ノ抗議ヲ受容ルルヲ得ス若調査ノ結果蘇側出先官憲力罪ヲ犯セルコト確實トナリタル場合ニハ之カ處罰ヲ爲スコトトスヘシ差當リ地方官憲ニ對シ上陸セル漁夫ニ對スル保護方並ニ野口書記生ノ出張ニ付便宜供與方命令濟ナリ金鷄丸ノ利用ニ付テハ蘇側ニ異議ナキニ付右ニ關シ出先ニ必要ノ訓令ヲ發スヘシ

現場ニ於ケル調査ハ蘇側官憲及野口書記生ハ各獨立シテ別個ニ之ヲ行フヘキモノニシテ蘇側ハ共同調査ニハ全然反対ナリ又蘇側官憲ノ出張ニ付ヒ交通機關ニ付テハ目下ノ所何トモ申スラ得ス何レノ途本件真相ヲ明カニスル報告ヲ入手シタル上重ネテ論議スルコト致度ト述ヘ本件漁夫カ死亡セリトハ如何ナル情報ニ基クモノナリヤト反問シタルヲ以テ本使ハ我力海軍側ノ情報ニ基クモノナルカ追テ詳細ハ申述フル機會アルヘク夫迄責任官憲ノ處罰死者ヘノ賠償要求ヲ保留スルモノナリト述ヘ最後ニ富美丸及關係漁夫ハ暴風ノ爲避難中飲料水缺乏シ已ム無ク傳馬船ヲ陸岸ニ向ハシメタルモノナル處彼等力假ニ不法越境者ナリトスルモ之ニ對シ蘇側カ四、五〇發モ發砲シタルハ諒解ニ苦シム次第ナリト言ヘルニ「ソ」ハ或ハ國境守備官憲カ密獵者ト認メタル

369 昭和8年6月26日 在ソ連邦大田大使より 内田外務大臣宛(電報)

富美丸事件に關し、ソコリニコフ外務人民委員代理を往訪し日ソ双方の議論不一致の点会談について

別電 六月二十六日發在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛第三五七号

日本軍艦の行動に関するソ連側の抗議申入れ  
について

モスクワ 6月26日後発  
本省 6月27日前着

往電第三五〇號ニ關シ  
第三五六號

二十六日求メニ依リ「ソコルニコフ」ヲ往訪セル處「ソ」ハ本件ニ付蘇側ニ於テ不當ノ行動アリタリトセハ其責任者ノ處罰等適當ノ處置ヲ執ルヘク決シテ責任ヲ回避セントスル意思ナキニ付此ノ點ハ日本側ニ於テ了承シ置カレ度キモ元來現地ハ交通甚々不便ナルノミナラス國境監視所モ無ク蘇聯人ノ在住セサル地方ナル爲未タ何等事件自体ニ付情報ヲ入手スルニ至ラス然ルニ當初日本側ハ在東京蘇聯大使ノ不同意ニ依リ軍艦ヲ同地ニ派遣セサルコトトナセルトノコトナリシニ拘ラス東京ニ於テ天羽情報部長カ本件ニ關スル海軍側ノ「コンミユニケ」ニ付言明セラレタル處ニ依レハ日本軍艦ハ現地ニ赴キ兵員ヲ上陸セシメ剩ヘ關係日本人漁夫ノ死体等ヲモ收容シ去リタル趣ニシテ右軍艦ノ行動ハ蘇聯ノ主權侵害ナルノミナラス事件ノ真相調査ヲ殆ト不可能

ナラシメタルモノナリトテ別電第三五七號ノ覺書ヲ手交シ尙天羽情報部長ノ言明ニ依レハ日本軍艦カ蘇側領海ニ許可ナク入りタルコト明カナルカ東郷局長ハ右言明ノ發表セラレタル後在東京蘇聯大使館參事官ニ對シ右事實ヲ打消シ日本軍艦ハ蘇聯ノ領海ニ入ラサリシ旨ノ説明ヲ與ヘラレタル由ナリト告ケ右ハ二十一日本使トノ會見前ニシテ天羽情報部長ハ前記海軍側ノ「コンミユニケ」ノ内容ニ付本使ニ於テモ蘇側へ傳ヘタルヤノ如ク述ヘ居ラルニ拘ラス本使カ同會見ニ於テ右海軍側ノ情報ニ付言及セサリシハ了解ニ苦ム處ナリト語リ蘇聯人ノ在住セサル地方ニ於テ日本人力殺害セラレタリトハ誠ニ謎ノ如キ事實ニシテ然モ死体等證據トナルヘキモノハ既ニ日本海軍ニ依リ持去ラレタリトセハ蘇側ニ於テ事件ノ真相ヲ確カムル方法ナク遺憾且不愉快ノ次第ナリト縷說セルニ依リ本使ハ蘇側ニ於テ未タ情報ニ接セストノコトナルモ「ペトロ」來電ニ依レハ同地「チホノフ」氏ハ緒方領事トノ打合ニ先ソジ二十一日夜急遽現地ニ向ケ出張セルトノコトナルニ付既ニ同氏ヨリ何等カノ情報アルヘキ筈ト推測セサルヲ得サルモ右ハ暫ク措キ前記海軍側ノ情報ナルモノハ二十一日會見後接受セルモ本使トシテ

ハ野口書記生調査ノ結果ヲ待チ會談シタシト考ヘ  
今日迄御話スルヲ差控ヘ居タル次第ナルカ右ニ依レハ日本軍艦ハ蘇聯領海内ニ入ルコトヲ殊更差控ヘタルコト東郷局長ノ説明ノ通ニシテ當時現地附近ニ至リタル太刀風ハ避難船富美丸ヨリ救ヲ求メラレタルニ依リ同船ニ向ヒ急行シ同船ノ「ランチ」ニテ少數ノ兵員ヲ上陸セシメタルモノノ如ク其際四、五發ノ彈痕アル屍体三個及三、四十發ノ彈痕アル傳馬船ヲ發見セルニ依リ之等ヲ收容スルト共ニ證據ノ蒐集並ニ之カ煙滅ヲ防ク爲陸岸ヲ搜索セシニ一漁屋ノ外「ゲ、ペウ」監視所ヲ見出シタルカ之等ニハ何レモ住民無カリシモ小銃弾薬隊長ノ寫眞其他十五日三名ノ越境者ヲ射殺セリトノ文書ヲ發見シタルヲ以テ之等ヲ後日ノ爲持歸リ尙屍体ノ次第ヲ傳ヘ右海軍側ノ措置ハ當時ノ事情ニ照シ當然ノコトニシテ人命保護ニ責任アルモノトシテハ何人ト雖同様ノ措置ヲ講スヘク一種ノ自衛的手段ト云フヘク之ニ對シ蘇側力抗議セラルハ諒解ニ苦ム處ナリトテ大體貴電第一五九號ノ次第ヲ傳ヘ右海軍側ノ措置ハ當時ノ事情ニ照シ當然ノ傳達スルコトトナスヘキモ恐ラク本國政府モ本使ト同様ノ見解ヲ持スルモノト認ム假ニ日本人ニ犯罪行爲アリタリト

(別電)

浦塩ヨリ哈府ニ暗送アリ度シ  
浦塩ニ轉電セリ

モスクワ 6月26日後発  
本省 6月27日前着

(別電)  
第三五七號

本人漁夫三名ノ事件ニ付大田大使カ日本政府ノ名ニ於テ爲サレタル申出ニ關シ蘇政府ニ於テハ一應ノ調査ヲ遂ケタル。力右地方ハ荒野地帶ニシテ蘇聯國境守備隊ノ屯所存在シ居ラス從テ本件ニ關スル通知ハ蘇政府ノ極メテ了解ニ苦ム所ナリ蘇政府ノ手許ニハ現ニ事件ヲ確證ス可キ又其ノ真相ヲ鮮明ス可キ何等ノ情報無シ勿論今後調査ノ結果大田大使ノ通知セラレタルカ如キ事實確認セラレ蘇聯官吏ノ罪狀明白トナラハ彼等ハ適當ノ懲罰ヲ加ヘラル可キモ目下ノ處事件ハ蘇側ニ取り全ク不明ノ状態ニ存リ。

同時ニ蘇政府ハ日本驅逐艦太刀風カ許可無クシテ「クロノツキー」岬地方ノ蘇聯領水ニ入り乗員ノ一部ヲ上陸セシメ而シテ六月二十一日日本大使館ヨリ外務部ニ通知有リタル前記漁夫事件調査ノ爲勝手ノ行動ニ出テタルコトニ對シ嚴重抗議スルノ必要ヲ認ムルモノナリ右日本軍艦ノ行動ハ議論ノ余地無キ且絶對的ナル法律上ノ權利ノ甚タシキ侵犯ナリ。

加之右行動ハ本件發生ノ眞否並本件力實際發生シタリシ場合ニ於ケル之力真相調査方訓令ニ接シタル蘇聯地方機關ニ多大ノ困難ヲ與ヘタリ蘇政府ハ日本外務省歐米局長東郷氏

本省 6月27日発

## 暗第一八七號

(欄外記入)廿六日朝東郷局長ハ他用來訪セル「スピルヴァネク」參事

官ニ對シ富美丸漁夫射殺事件ニ付「ソ」側出先官憲ノ態度誠意ヲ欠クモノアリト認メラル節ヲ指摘シ(野口發本大臣宛電報第八及九號参照)斯ク「モスコー」ノ指令ガ先官憲ニ徹底セサル様ニテハ我方トシテ現在迄テ蒐集セル材料ニ基キ第二段ノ交渉ニ入ルノ外ナキコトナルヘク今同ノ事件ニハ出先海軍ハ相當激昂シ居リ之レ以上遷延スルニ於テハ事態重大化スル虞アルニヨリ「ソ」側ニテ迅速且誠意ヲ以テ事件ヲ解決スルノ必要アル旨ヲ述フルト共ニ先方ノ質問ニ對シ我海軍軍人力富美丸ニ搭乗シ現場ニ上陸シタル事實ニ付往電第一七九號ノ趣旨ヲ述ヘ右ハ緊急自衛ノ行爲ニ外ナラサルコトヲ説明シ置キタル趣ナルカ同日午後「ユレー・ネフ」大使重光次官ヲ來訪シ本件力如何ナル事情ノ下ニ發生シタルヤ今ニ判明セサルカ野口書記生ニ對スル便宜供與方ニ付テハ万端手筈濟ナリ只タ日本軍艦カ「ソ」聯領水ニ入りテ現場ニ到ルコトハ領土權ト抵觸スルニヨリ御斷ハリシタル次第ナリ然ルニ其ノ後承知スル所ニヨレハ

カ六月二十日駐日蘇聯大使館參事官「スピリワニツク」氏ニ對シ日本驅逐艦ノ蘇水域侵入ノ事實ヲ否認シタル事ハ極メテ了解ニ苦ム所ナル旨表明セサルヲ得ス而モ更ニ一層了解シ難キハ情報部長天羽氏カ六月二十三日外人記者團ニ對シ驅逐艦ノ蘇水域侵入ニ關シテハ恰モ在莫斯科日本大使館ヨリ六月二十一日外務部ニ通知済ナルカ如キ事實無根ノ聲明ヲ爲シ居レル事ナリ。

蘇政府ハ日本大使館ヨリ右ノ如キ通知ヲ受ケタル事ナシ天羽氏ノ「コソミニケ」ニ依リ初メテ日本驅逐艦ノ不法ナル行動ヲ承知シ之ニ對シ日本政府ニ本抗議ヲ申入ルモノナリ。

浦潮ニ轉電セリ  
大臣ヨリ「ペトロ」ニ轉電アリタシ  
浦潮ヨリ哈府ニ郵送アリタシ

~~~~~

370 昭和8年6月27日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

富美丸事件に関する在本邦ユレネフ大使と重光次官との会談内容について



べき回答について

別電 六月二十八日発内田外務大臣より在ソ連邦大

田大使宛第一九一號

右回答文

本省 6月28日発

暗第一九〇號

貴電第三五六號ニ關シ

「ソ」側申越ニ對スル回答トシテ別電ノ通「ソ」側ニ御申入アリタシ尙往電第一八九號ノ件適宜説明シ置カレタシ本電別電ト共ニ浦潮及「ペトロ」ニ轉電シ浦潮ヨリ哈府ニ暗送セシム

(別電)

本省 6月28日発

略第一九一號

「クロノツキ」岬地方ニ發生シタル日本人漁夫殺害事件ニ付六月二十六日「ソ」政府ヨリ大田大使ヲ通シテ抗議アリタル處本件事實ハ堪察加東海岸「クロノツキ」岬附近ニ出漁中ノ大同漁業會社獨航船富美丸カ十四日來ノ荒天及

上陸セシメ勝手ナル行動ヲナセリト謂フモ前記ノ軍艦ハ右領海ニ入りタル事實絕對ニ無ク而シテ右兵員ノ上陸及其ノ行動ハ右ノ如キ緊急ノ場合ニ於テ人命救助ノ爲ニ執リタル已ムヲ得サル行動並應急措置トシテ當然容認セラルヘキコトナルヲ以テ右ニ付何等「ソ」政府ヨリ抗議ヲ受クヘキ筋合ノモノニアラス却テ斯ル措置ニ出ツルヲ餘儀無クセシメタル「ゲ、ペ、ウ」官憲ノ不法且無責任ナル行爲ニ付キ之ヲ嚴重ニ追及セサルヲ得ス又本件實情取調ノ爲農林省監視船ニ依リ野口書記生ヲ現場へ派遣方ニ付「ソ」側中央當局ノ承諾ヲ得タルニ拘ラス地方官憲ニ於テ同書記生ノ乗船ヲ遲延セシメタルハ帝國政府ノ諒解ニ苦シム処ナリ

東鄉歐米局長カ在京「ソ」聯邦大使館「スピリワーネク」參事官ニ對シ日本驅逐艦ノ「ソ」聯邦水域ニ侵入セルコトヲ否認セルハ即チ前記ノ事實ニ合致スルモノナリ又天羽情

報部長カ六月二十三日外人記者團ニ對シ驅逐艦ノ「ソ」聯邦水域侵入ニ付六月二十一日外務部ニ通知済ナルカ如ク語リタル事實無シ從テ「ソ」政府ヨリ斯ル不當ノ抗議ヲ申入レラルルハ帝國政府ノ意外トスル所ナリ

本件ニ關シテハ本月二十七日現場ニ到着セル野口書記生ヨ

機械故障ノ爲北緯五十四度二十九分東經百六十一度十六分

距岸千米附近ノ地點ニ避難ノ止ムナキニ至リ十五日漁夫三名ハ飲料水ヲ求ムル爲傳馬船ニテ陸岸ニ向ヒタル處陸岸ヨリ何等ノ警告モ無ク不法ニ四五十發ノ射擊ヲ受ケ富美丸モ亦亂射セラレタルモノニシテ富美丸ハ傳馬船ヲ殘シテ避難

シ急ヲ附近ニ在リタル我驅逐艦ニ告ケタルニヨリ我驅逐艦ハ直チニ同地附近ニ至リタルカ右傳馬船内ニ残リタル漁夫三名ノ生死不明ニシテ直チニ何等カノ措置ヲ執ル必要ニ迫ラレタルヲ以テ驅逐艦ハ「ソ」領水外ニ留リ富美丸ニ若干ノ兵員ヲ乗組マシメテ現場ニ至ラシメタリ然ルニ現場海岸ニ慘殺セラレタル漁夫三名ノ屍体放置セラレアリタルニ付我兵員ハ右カ何人ノ行爲ナルヤヲ確メム力爲附近ヲ搜索シタル處同所ニハ「ゲペウ」宿所ト認ムヘキ建物アリタルニ拘ラス駐屯者不在ニテ會談スル能ハサリシモ取調ノ結果同所ニハ「クロノツキ」分遣隊長「クージン」外四名駐在シ前記發砲カ此等「ゲペウ」官憲ノ行爲ナルコトノ確證ヲ得、前記屍体ト共ニ關係證據物件ヲ持歸レリ

然ルニ「ソ」政府ハ日本驅逐艦太刀風カ許可無クシテ「クロノツキ」岬地方ノ「ソ」聯邦領水ニ入り乗員ノ一部ヲロノツキイ」岬地方ノ「ソ」聯邦領水ニ入り乗員ノ一部ヲリ追テ調査報告アルヘキヲ期待スルモ前記漁夫ハ「ゲ、ペ、ウ」官憲ニ依リ不法ニ殺害セラレタルモノナルコトハ諸般ノ情報ニ依リ既ニ明瞭ナルニ付帝國政府ハ曩ニ在「ソ」聯邦大田大使ヲシテ「ソ」政府ニ對シ本件「ソ」聯邦官憲ノ不法行爲ニ付嚴重ナル抗議ヲ提出スルト共ニ責任者ノ處罰及被害者ニ對スル賠償要求等ニ付申入シムル所アリタルカ帝國政府ハ本件調査終了ヲ俟チテ更ニ具體的要要求ヲ提出スヘキコトヲ茲ニ聲明スルモノナリ

373 昭和8年6月28日 在ソ連邦大田大使より

内田外務大臣宛

太刀風の行動に関するソ連側抗議申出について

(7月17日接受)

在「ソヴィエト」聯邦

昭和八年六月二十八日

特命全權大使 大田 爲吉 [印]

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

太刀風ノ行動ニ付「ソ」側抗議申立ノ件

理ヨリ本使ニ手交アリタル「ソ」側申出寫並邦譯文別紙ノ  
通リ茲ニ進達ス

(別紙)

日本政府ノ情報ニ依レハ「クロノツキー」岬地方ニ於テ日  
本人漁夫三名ニ關スル事件發生シタリトテ大田大使カ日本  
政府ノ名ニ於テ外務部ニ爲サレル申出ニ關シ「ソヴィエト」  
聯邦政府ニ於テハ一應ノ調査ヲ遂ケタルカ荒野地帶ヲナセ  
ル「クロノツキー」岬地方ニハ「ソ」聯邦國境守備隊ノ屯  
所存在シ居ラス從テ本件ニ關スル報道ハ「ソ」政府ヲシテ  
極メテ了解ニ苦シマシムモノナル旨通知ス「ソ」政府ノ  
手許ニハ現在事件ヲ確證スヘキ又其ノ真相ヲ闡明スヘキ何  
等ノ情報ナシ、若シ今後ノ調査ニ依リ大田大使ノ通知セラ  
レタルカ如キ事實確證セラレ「ソ」聯官吏中ノ何者カノ罪  
状明白トナラハ彼等ハ言フ迄モナク適當ノ懲罰ヲ加ヘラル  
ヘキモ目下ノ處全事件ハ「ソ」政府ニ取り全ク不明ノ狀態  
ニアリ

之ト共ニ「ソ」政府ハ日本驅逐艦太刀風力許可無クシテ  
「クロノツキー」岬地方ノ「ソ」聯邦領海内ニ入り乗員ノ

ニ本抗議ヲ申入ルモノナリ

374 昭和8年7月3日 在ソ連邦大田大使より  
内田外務大臣宛(電報)

富美丸事件におけるソ連側の責任と損害賠償と

を認める旨のソコリニコフとの会談について

別電 七月三日発在ソ連邦大田大使より内田外務大

臣宛第三六七号

ソ連政府は漁夫殺害事件の責任者を処罰し被  
害者遺族に賠償すべき旨の覚書

モスクワ 7月3日前發

本省 7月3日前着

貴電第一九〇號ニ關シ

二日「ソコルニコフ」ニ會見ヲ求メタルニ「ソ」ヨリモ會

談シ度キ用件アリトノ事ナリシニ依リ往訪セシニ「ソ」ハ

富美丸事件ニ關シ本使ヨリノ發言ヲ遮リ自分ヨリ先ツ以テ  
申上ケ度シトテ該事件ニ付今尙調査續行中ナルモ今日迄ニ  
得タル結果ニ依リ蘇側官憲カ日本人漁夫三名ヲ射殺スルニ

一部ヲ上陸セシメ而シテ六月二十一日在莫斯科日本大使館  
ヨリ外務部ニ通知アリタル三名ノ漁夫事件調査ニ付勝手氣  
儘ナル行動ニ出テタルコトニ對シ嚴重ナル抗議ヲ申入ル  
ノ必要ヲ認ムルモノナリ右日本軍艦ノ行動ハ議論ノ餘地ナ  
キ且絶對的ナル法律上ノ權利ノ甚シキ侵犯ナリ加之右行動  
ハ三名ノ漁夫事件ノ調査ヲ命セラレ同事件ノ眞否ノ決定並  
ニ同事件カ實際發生シタリシモノナル場合ニ於ケル之力真  
相ノ闡明ニ當レル「ソ」聯邦官憲ニ多大ノ困難ヲ與ヘタリ  
「ソ」政府ハ日本外務省歐米局長東郷氏カ六月二十日駐日  
「ソ」聯邦大使館參事官「スピリワーネク」氏ニ對シ日本  
驅逐艦ノ「ソ」水域侵入ノ事實ヲ否認シタルコトニ關シ右  
ハ極メテ了解ニ苦シム所ナル旨表明セサルヲ得ス更ニ一層  
了解シ難キハ日本外務省情報部長天羽氏カ六月二十三日外  
人記者團ニ對シ驅逐艦ノ「ソ」水域侵入ノ事實ニ關シテハ  
恰モ六月二十一日在莫斯科日本大使館ヨリ外務部ニ通知濟  
ナルカノ如キ全然事實ニ符合セサル聲明ヲ爲シタルコトナ  
リ「ソ」政府ハ在莫斯科日本大使館ヨリ右ノ如キ通知ヲ受  
ケタルコトナク天羽氏ノ「コムミニケ」ニ依リ始メテ日  
本驅逐艦太刀風ノ非合法的行動ヲ承知シ之ニ關シ日本政府  
ノ「メモ」ヲ手交セリ依テ本使ハ右早速本國政府ニ傳達ス  
ヘキ旨ヲ答フルト共ニ自分トシテハ蘇側カ本件ヲ迅速ニ解  
決セント力メラルモノト認メ之ヲ喜フモノナルモ右損害  
賠償ノ點ニ付蘇側ノ申出カ日本政府ノ趣意トスル所ト一致  
シ居ルヤ多少疑ナキニアラサルヲ以テ何分ノ回訓ヲ俟チ更  
ニ申上クル事トシ度ク又本件ニ付蘇側ニ於テハ今尙調査中  
ナリトノ事ナルカ今後ノ結果ニ依リ蘇側本日ノ申出ニ變更  
ヲ生スル事ナキヤト念ヲ押シタルニ「ソ」ハ本日ノ申出ハ  
蘇側ノ最後的決定ニシテ今後變更スル事ナカルヘキヲ答ヘ  
タルニ依リ

蘇側ニ於テハ日蘇國交ノ大局ニ鑑ミ本件ニ付テモ斯ク率直  
ニ且誠意ヲ以テ解決セント努ムル次第ナルニ付日本側ニ於  
テモ此ノ點ヲ了解セラレ事端ノ發生ヲ防止セラル様希望  
スト述ヘタルニ依リ本使ハ日本側ニ於テモ日蘇國交ノ圓滿

ノモノナリシト述ヘ明答ヲ避ケタルモ本使ハ本件カ以上ノ如ク進展シ來レルニ鑑ミ此ノ上ノ論議ヲ差控ヘ會見ヲ打切リ置ケリ  
尙本件ニ付「ゾ」ヨリ手交ヲ受ケタル別電ノ「メモ」中ニハ遺憾ノ意ヲ表スル旨ノ字句ヲ缺ク處曩ニ「ユレネフ」大使ヨリ重光次官ニ對シ之ヲ述ヘタル經緯モアリ此ノ際右ノ點ヲ論議スルハ如何ト考ヘ態ト差控ヘ置キタル次第ナルモ若シ其ノ必要ヲ認メラルナラハ其ノ旨御回電アリ度又記賠償ノ件ニ付貴電第一七六號ニハ單ニ被害者ノ賠償トアル處右ハ被害者ニ對スル賠償トシテ遺族ニ交付スヘキ性質ノモノヲ意味スルモノト解セラレ從テ蘇側今回ノ申出ハ右ニ合致スルモノト認メタルモ或ハ國家ニ對スル賠償ヲモ含メラルル場合無キヲ保セストモ考ヘ前記ノ通り應酬シ置ケル次第ナルニ付此ノ點ニ關シテモ爲念何分ノ儀御回電アリ度シ浦潮ヘ轉電セリ

ヲ念トスルハ蘇側ニ讓ル處無キ次第ニシテ昨日モ當地外交團ノ或ル者ハ本件ノ爲日本ハ勘察加ラ占領スルニ非セヤトサヘ本使ニ問ヒタルカ獨逸ノ山東占領事件伊國ノ「コルフ」島事件乃至尼港事件ノ如キハ本件ノ如キ出來事カ其ノ因ヲ爲セルモノナルニ鑑ミルトキハ本件ニ付日本海軍ノ執レル行動ハ最小限度ノ自衛措置ニシテ當然過キル程當然ノモノト云フヘク右ニ依リテモ我海軍力如何ニ兩國國交ヲ重ンシ慎重ニ行動スルモノナルヤヲ證スルヲ得ヘシ又野口ノ出張ニ付地方官憲力故意ニ其ノ出發ヲ遷延セシメムトセシヤノ情報モアリ更ニ又蘇側カ加害者ヲ隱蔽シ居ルニ非スヤトノ疑ヲサヘ日本側ニテ抱クモノアリト述ヘタル後貴電第一九一號ヲ露譯セルモノヲ手交シ右ハ一兩日前接到セル訓令ニ基クモノナルモ翻譯ニ手間取リタル爲本日持參スルコトトナレル次第ナリト附言セシニ「ゾ」ハ之ヲ一讀ノ上内容ノ大部分ハ既ニ解決済ト思ハルモ蘇側カ日本海軍ノ行動ニ對シ不滿ナルハ依然變リ無シ即チ其ノ行動ノ結果蘇側ニ於テ折角調査ノ爲現地ニ官吏ヲ出張セシメタルモ證據物件ヲ蒐集スルコトヲ得サリシ實情ニシテ蘇側トシテハ假ニ惡意アリトセハ事件ヲ曖昧ノ内ニ葬リ去リ得サルヘキニ非サリ

ノ如キ申出ヲ爲シ最モ率直ニ且誠意ヲ以テ本件ノ解決ヲ期  
セントスルモノナリ國境紛争事件カ擴大セル事例アルモ今  
回ノ出來事ハ其ノ性質ヲ異ニスルモノニシテ日本カ日蘇開  
戰ニモ等シキ占領ヲ敢テセラルカ如キコトハ毫モ想像シ  
得サル處ナリ野口氏ノ出張ニ付當初訓令力徹底セサリシカ  
如キモ右ハ交通、通信不便ナリシ爲ニ外ナラス現地ニ於テ  
「チホノフ」ト共同シ種々調査セラレシ趣ヲ聞キ喜ヒ居ル  
次第ナリ又加害者ニ付蘇側カ隱蔽シ居ルカ如キコト絶對ニ  
無ク事實行衛不明ナルカ處罰スヘキモノハ直接ノ加害者ニ  
止マラス關係アル間接ノ責任者ヲモ含ム次第ナルニ付右御  
承知置アリ度シト應酬セリ

次<sup>(3)</sup>テ本使ハ曩ニ蘇側ニ於テハ天羽情報部長カ蘇聯ノ領海ニ  
立入リタル旨言明セシカ如ク說カレ又同部長カ右海軍ノ行  
動ニ付本使ヨリ蘇側ニ告ケタルモノノ如ク述ヘタリト說カ  
レタルカ右ニ付テハ政府ヨリ事實ニ非サル旨打消シ來レル  
次第モアルニ付蘇側カ如何ナル筋ヨリ情報ヲ得ラレタルモ  
ノナルヤ承知シ度シト述ヘタルニ「ソ」ハ蘇側ノ得タル情  
報ハ天羽部長ノ言明ナルモノカ斯ク信セシムルカ如キ性質

勘察加「オリガ」岬ノ事件發生地方ニ於ケル蘇側代表者ノ  
調査ハ今ヤ終了セントス右調査ニ依リ國境警備隊員カ三名  
ノ日本人漁夫ヲ射殺シタル事實實際發生シタルコト判明セ  
リ予ハ六月廿六日大田大使ニ述ヘタル處ニ從ヒ調査ニ依リ  
テ得タル結果ニ基キ蘇政府ノ名ニ於テ「オリガ」岬ニ於ケ  
ル國境警備隊見張所員ノ行爲ハ現行法規ノ亂暴ナル違反ナ  
ル旨茲ニ聲明スルコトヲ委任セラレタリ右ニ關シ蘇政府ハ  
本不祥事件ニ對スル直接又ハ間接ノ責任者ヲ法ニ依リ嚴罰  
シ茲ニ右犯人ノ不正行爲ニ依リ生シタル損害ニ付被害者遺  
族ニ賠償スルノ措置ヲ執ルヘシ

375  
昭和8年7月4日 在ソ連邦大田大使より  
内田外務大臣宛(電報)

富美丸事件に関する外務部情報部発表報告並

## 応方策等につき回訓方稟請

別電 七月四日発在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛第三七一号

右外務部情報部発表

モスクワ 7月4日後発

本省 7月5日前着

往電第三六六號ニ關シ  
第三七〇號

外務部情報部ハ三日夜別電第三七一號ノ通發表シ四日ノ各新聞ハ「タス」通信トシテ之ヲ掲載シ居レルカ同發表中ニハ國境警備見張所員ト日本人漁夫三名トノ間ニ衝突アリタルコト判明セリトアルカ如キ「ソコリニコフ」カ本使ト會見ノ際言及セサリン節アルニ付爲念全文電報ス

尙元來本事件ハ富美丸カ荒天ニ遭遇シ機關ニ故障ヲ生シタル結果領海内ニ避難シ飲料水ヲ得ル爲三人ノ漁夫ヲ海岸ニ向ハシメタリトノヨトニ起因スル處本年度ニ於テハ農林省ハ多數ノ沖取船ノ出漁ヲ許可シ富美丸（一八噸ノ由）ノ如キ獨行船ノ數ハ本使ノ傳聞スル處ニ依ルモ約三百ノ多キニ達スル趣ニテ斯ル多數ノ小船舶カ蘇聯領海附近ニ於テ漁業ニ從事スル以上今後ニ於テモ類似ノ事態發生シ或ハ領海内

（別電）

モクスワ 7月4日後発

本省 7月5日前着

第三七一號

七月二日在莫斯科日本大使大田氏來訪ノ際外務人民委員代理「ソコリニコフ」ハ外務部派遣員指導ノ下ニ在堪察加蘇聯代表者カ爲シタル調査ノ結果ヲ左ノ通同大使ニ申述ヘタリ

事件ノ取調ハ未タ完了セサルモ既ニ充分明瞭トナレル幾多

ノ事實ヨリ取調ノ結果本年六月十五日堪察加東海岸「オリガ」岬北方ニ於テ國境警備隊見張所員及三名ノ日本人漁夫

間ニ衝突アリタルコト判明セリ事件發生地トシテ「クロノツキー」岬ヲ名指セシハ正シカラス同地ニハ國境警備隊見張所存在セス「オリガ」岬ニ於ケル國境警備隊見張所員ハ

衝突後行方不明トナリタルヲ以テ其ノ行衛搜查續行中ナルコト判明セリ然シテ國境警備隊見張所内ニ於テ發見セラレタル書類ニ基キ三名ノ日本人漁夫ヲ射撃セル事實並ニ此等漁夫ハ射撃者ニ對シ武器使用ノ權利ヲ禁シ居レル事態ノ下ニ殺害セラレタルコト判明セリ「ソコリニコフ」ハ此ノ場

ニ入り或ハ飲料水ヲ得ル爲等ノ口實ニ依リ乗込員ヲ陸岸ニ向ハシムル場合ナキヲ保セス然ルニ右ノ如キ場合ハ一般船舶航行中偶々荒天ニ際會スル場合ト其事情ヲ大ニ異ニスルモノト認メサルヲ得サル處政府ニ於テハスル場合如何様取扱ハル御方針ナリヤ例へハ今回ノ如キ場合ニ於テ邦人漁夫カ射殺セラレスシテ密獵密賣乃至不法越境等ノ理由ニ依リ拘禁セラレ其傳馬船カ抑留セラルカ如キコトアリトセハ如何ニ處置セラル御意向ナリヤ右ハ沖取出獵<sup>（魚）</sup>ヲ許可セラルニ際シ御攻究濟ノコトナルヘク從テ右許可ニ際シ何等カノ條件ヲ附シ居ラルニアラスヤトモ認メラルニ付何分ノ儀回電アリタク又蘇側ニ於テハ前記ノ通衝突アリタルカ如ク發表セル處關係漁夫乃至富美丸カ武器ヲ以テ抵抗シタリヤ否ヤニ關スル當時ノ事情ニ付テハ同船ニ付調査スレハ判明スヘキヤニ認メラルニ付一應取調方御取計アリタク又我當局ニ於テハ沖取船乃至獨行船即チ蘇側陸岸ニ何等根據ヲ有セサル漁船ニ對シ武器ノ備付ヲ許可シ若ハ默認シ居ル次第ナリヤ尙又之等船舶ノ炭水補給關係ハ如何ニナリ居ルヤ今後ノ爲承知シ置度ニ付何分ノ御回訓ヲ請フ

合右ハ現行命令ノ違反ナルニ付蘇聯政府ハ本件ノ直接乃至間接ノ犯人ノ嚴罰方並ニ國境警備隊見張所員ノ不當行爲ニ依リ齊ラサレタル被害者遺族ノ損害賠償方ニ對シ措置ヲ講スヘキ旨日本大使ニ申出タリ

376 昭和8年7月7日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛（電報）

富美丸漁夫殺害事件の解決および今後の類似事件発生予防策等につきソ連側へ申入れ方訓令

別電 七月七日発内田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛第二〇〇号

右事件の善後措置について

本省 7月7日後7時0分発

貴電第三六六號ニ關シ

邦人漁夫三名ノ慘殺事件ハ北洋漁業史上未曾有ノ不祥事トシテ痛ク本邦輿論ヲ刺戟シタル歎我方トシテハ右貴電「ソ」側ノ申出ニ依リ本件ヲ解決スルコトニ主義上異議ナク他方野口書記生ノ調査モ一段落ヲ告ケタルニ付本件ノ具体的解

決ヲ計ルコトト致度意向ナリ。

就テハ貴官ハ「ソ」側ニ対シ帝国政府トシテハ今回「ソ」政府力率直ニ且誠意ヲ以テ事件解決ニ努メタルコトニ対シ

曩ニ「ユレネフ」大使カ重光次官ヲ來訪ノ際事件發生ヲ遺憾トスル旨ノ陳述アリタルニモ顧ミ茲ニ満足ノ意ヲ表スル

旨並ニ本件責任者タル「クロノツキ」分遣隊長Kudin及、其ノ部下等ニ対シ速ニ逮捕ノ上処罰セラルヘク右ニ付テハ遲滯ナク通知ヲ得タキ旨申入レラルト共ニ本件被害者ニ対スル賠償ニ付テハ別電第一九九号(金鶴)ニ依リ御交渉相成度。尚將來ノ為此種事件ノ發生ヲ豫防シ又事件發生ノ場合迅速且公正ナル善後措置ヲ講スルカ為二八日「ソ」官憲ノ隔意ナキ協力ト本邦官憲間ノ連絡ヲ必要トスルニ付今次ノ事件ヲ機トシテ別電第二〇〇号ノ通り交渉シ度キニ付右併セ御申入相成度尤モ右別電ノ諸項中ニハ從來屢々申入レタルニ拘ラス今日迄解決ヲ見サルモノアルモ此際此等問題ニ付話合ヲ付ケ置クコトハ日「ソ」間紛糾ノ原因ヲ除去スル見地ヨリ極メテ望マシキ次第ナルヲ以テ先方ノ同意ヲ取付方精々御尽力相成度シ

別電ト共ニ浦汐及「ペトロ」ニ轉電シ浦汐ヨリ哈府ニ暗

ト共ニ事故發生ノ場合一方ヨリノ申出アレハ現場ニ於テ我領事館貟立會ノ下ニ調査ヲ為スコト  
右ハ何等「ソ」側ノ内政ニ干渉セントスルモノニ非スシテ單ニ事實ヲ相互ニ明瞭ナラシメ問題ノ處理ヲ容易ナラシムル趣旨ニ出ツルモノナリ

三、辺境地ニ於ケル交通不便ナルニ鑑ミ事故發生ノ場合ハ

「ソ」側官憲及我領事館貟トノ連絡及遭難者救助ノ為我農林省監視船若ハ普通船舶力事件發生地及其ノ最寄「ソ」側官憲又ハ我領事館貟ノ駐在地ニ寄港スルコトヲ「ソ」側ニ於テ遲延無ク許可スルコト（今次事件ノ際既ニ金鶴丸ニ對シ先例ヲ開キタルモノ之ヲ一般的了解トシ置キ度）

四、我領事館貟カ當時必要ニ應シ「ソ」側領水附近ニ在ル我艦船ニ自由ニ往復スルニ支障無カラシムル為當該館貟ニ

對シ一漁期間ノ有効ノ包括的通行証ノ如キモノヲ與フルコトヽシ其ノ便乗スル船舶ニ付テハ必要ナル便宜ヲ供與スルコト

五、通信連絡ニ付テモ不便ナル事情アルニ鑑ミ事故發生ノ場合我力艦船ト領事館貟トノ通信ノ為「ソ」側沿岸無線局

ト我船舶ノ無線トカ連絡シ得ル様取計フコト

（別電）

本省 7月7日後4時0分発 第二〇〇號

帝国政府ハ今次事件ノ發生ニ鑑ミ從來ニ於テモ「ソ」官憲ノ邦人ニ對スル發砲事件相當多数ニ上り居リ被害邦人ニ對スル賠償問題ノ如キ何等解決ヲ見シテ今日ニ及ヒオルニモ鑑ミ此ノ機會ニ於テ将来此種不祥事件ノ發生ヲ防止シ且事件發生ノ場合迅速且公正ナル善後措置ヲ講スル為日「ソ」兩国官憲ノ協力並ニ本邦官憲ノ連絡ヲ容易ナラシムル見地ヨリ左記諸項ニ付「ソ」政府ノ同意ヲ求ムルコト、致度一、今ノ如キ不祥事件ハ「ソ」側官憲カ國境警備規則中武器使用ノ規定ヲ盾トシテ濫リニ發砲スルニヨルヲ以テ爾后「ソ」官憲ハ出漁邦人ニ對シ実彈ノ射擊ヲ慎ミ何等警告ノ必要アル場合ニハ他ノ方法ニ依ルコト

二、日「ソ」官憲ノ隔意無キ協力ヲ圖ル為「ソ」官憲ハ平素自ラ監視取締ニ任スルノ外我領事館貟又ハ我艦船ニ對シ直接不法行為者ノ行動ニ關シ通報シ其ノ注意ヲ喚起スル

377 昭和8年7月8日 内田外務大臣より  
在ペトロバウロフスク緒方(整肅)領事宛(電報)

第一琴平丸ソ連船に抑留の報に關し先方官憲との折衝の結果報告方訓令

本省 7月8日後6時30分発 第二三號

金鶴丸ヨリノ電報ニ依レハ第三雲陽丸附屬獨行船第二琴平丸ハ六日午後四時「ナラチエフ」岬東南方ニ於テ操業中「ソ」側「トロール」船ノ為抑留連行セラレタル趣ナルガ詳細ノ事情不明ニ付不取敢同船ノ運命及抑留ノ理由等貴地官憲ニ就キ御取調ノ上結果折返シ電報アリ度

「モスコー」及浦汐ニ轉電セリ

昭和8年7月11日 在ペトロバウロフスク緒方領事より  
内田外務大臣宛(電報)

第二琴平丸釈放のための保証金納入等に關し  
チホノフと共に船長に面談の結果について

本省 7月12日前着 ペトロバウロフスク 7月11日前發

送セシム

第二七號

往電第二五號ニ關シ

十日正午頃「チ」本官ヲ來訪シ琴平丸船長ト面會セラレタ  
リヤト尋ネタルニ付否貴下御留守ナリン爲面會出來サリシ  
ト答ヘタル處「チ」ハ然ラハ早速同行スヘシトテ本官ト共

ニ琴平丸ニ赴キタルニ付本官ハ船長ニ對シ囊ニ「チ」ノ提  
案セル九百圓ノ保證金納入並釋放方ニ關シ傳ヘタル處船長

ハ蘇側ノ不法行為ニ對シテハ絕對承服シ得サルモ若シ此ノ  
際右様取計方ヲ願ヘレハ結構ナリト答ヘタルニ付本官ハ若

シ右ニ異議無シトセハ其ノ金額納入ニ際シ從來交渉ノ行懸  
上外務部派遣官ニ對シ「將來何等カノ方法ニ依リ琴平丸及

其ノ投網ノ位置力距岸三浬以外ニアリタルコト立證セラル  
ル場合ハ蘇（側）ヨリ保證金ノ返還並同船抑留ニ依ル損害  
賠償要求ノ權利ヲ留保スル」旨ノ公文ヲ作り置ク積リナリ

ト告ケタル處船長ハ是非右様願度シト言ヒ早速右保證金ヲ  
在函館蘇聯領事館ニ納入スル様同市旅籠町篠原修作宛電報  
ヲ認メ本官ニ發電方ヲ依頼セリ

依テ本官ハ「チ」ニ對シ早速前記公文ヲ發送スヘク手配シ  
置ケリ

第三九號至急

大湊要港司令官ヨリ海軍省宛電報要領左ノ通不取敢

「、羽風ハ十七日午後八時琴平丸ヲ不法ニ拿捕セル「ペシコ  
フ」號ト「ヤウイナ」沖ニ於テ邂逅直ニ同船ヲ差押ヘタ  
リ

二、西岸ハ目下盛漁期ニ當面シ大ニ警戒ヲ要スヘキ時機ナル  
ヲ以テ直ニ「ペトロ」沖ノ太刀風ヲ招致シ不取敢加熊別  
(幌筵島)ニ護送何分ノ命アル迄「ペ」号ヲ抑留監視ニ  
アリ度シ

三、置ニ出テタル次第ナルニ付（前記別電三参照）結局琴平  
丸力即時釋放セラル、ニ於テハ「ペシコフ」号モ釋放セラ  
ルヘキ趣旨ヲ以テ至急本問題全体ヲ地方的ニ解決方御配慮  
アリ度シ

露、浦塙ニ轉電セリ浦塙ヨリ哈府ニ暗送アリ度シ  
（欄外記入）  
昨夜發電（別添大湊來電第三一一番内容ヲ電報セルモノ）

四、「ペ」號ノ差押ニ依リ「ペトロ」入港ハ強ヒテ決行ノ要  
ヲ認メザルニ至リタレハ警備艦ハ一先本事件ヨリ手ヲ引  
キ爾後ノ交渉ヲ緒方領事ニ一任セントス  
「モスコフ」、浦汐ニ轉電シ浦汐ヨリ哈府ニ暗送セシム

（欄外記入）  
内田外務大臣より  
在ペトロパウロフスク緒方領事宛  
(電報)

380 昭和8年7月19日 在ソ連邦大田大使より  
内田外務大臣宛(電報)  
第一琴平丸、ペシコフ号兩事件を地方的に解  
決するよう配慮方訓令  
第四〇號至急  
往電第三九号ニ関シ  
本件貴官ニ於テ折角御交渉中出先海軍ニ於テ勝手ニ前記往  
電ノ如キ措置ニ出テタルハ甚タ遺憾ナルモ「ソ」側ニ対シ  
テハ海軍側ニ於テ第二琴平丸ノ拿捕ヲ不法ト認メ右ノ如キ

追テ本夕「チ」ノ齋セル本件ニ關スル蘇側ノ調書ニ依レハ  
抑留當時ニ於ケル琴平丸ノ位置ハ北緯五三度〇七分五秒、  
東經一五九度二二分三秒即チ距岸二、一哩トナリ居レリ不  
取敢  
露、浦潮ニ轉電アリ度シ  
浦潮ヨリ哈府ニ暗送アリ度シ

379

昭和8年7月18日 在ペトロパウロフスク緒方領事宛  
(電報)

ペシコフ号拿捕に関する情報通知

本省 7月18日後8時発

大湊要港司令官ヨリ海軍省宛電報要領左ノ通不取敢

「、羽風ハ十七日午後八時琴平丸ヲ不法ニ拿捕セル「ペシコ  
フ」號ト「ヤウイナ」沖ニ於テ邂逅直ニ同船ヲ差押ヘタ  
リ

二、西岸ハ目下盛漁期ニ當面シ大ニ警戒ヲ要スヘキ時機ナル  
ヲ以テ直ニ「ペトロ」沖ノ太刀風ヲ招致シ不取敢加熊別  
(幌筵島)ニ護送何分ノ命アル迄「ペ」号ヲ抑留監視ニ  
アリ度シ

三、置ニ出テタル次第ナルニ付（前記別電三参照）結局琴平  
丸力即時釋放セラル、ニ於テハ「ペシコフ」号モ釋放セラ  
ルヘキ趣旨ヲ以テ至急本問題全体ヲ地方的ニ解決方御配慮  
アリ度シ

露、浦塙ニ轉電セリ浦塙ヨリ哈府ニ暗送アリ度シ  
（欄外記入）  
昨夜發電（別添大湊來電第三一一番内容ヲ電報セルモノ）

381 昭和8年7月23日 在ソ連邦大田大使より  
内田外務大臣宛(電報)  
第一琴平丸、ペシコフ号相互釈放を提案したの  
に対し先方は他日再会談の希望表明について  
モスクワ 7月23日後発  
本省 7月24日前着  
第四〇九號

日ソ外交關係  
(欄外記入)  
七 本件貴官ニ於テ折角御交渉中出先海軍ニ於テ勝手ニ前記往  
電ノ如キ措置ニ出テタルハ甚タ遺憾ナルモ「ソ」側ニ対シ  
テハ海軍側ニ於テ第二琴平丸ノ拿捕ヲ不法ト認メ右ノ如キ

タリト告ヶ本使ノ所見ヲ求メタルニ依リ本使ハ本件ノ核心ハ琴平丸カ蘇聯領水内ニアリタルヤ否ヤニアリ日本側ニテハ同船力領水外ニアリタル確證ヲ得タルヲ以テ同船カ蘇側ニ抑留セラレタルコトニ對シ抗議セサルヲ得サル次第ニテ之力爲海軍ノ行動ヲ見タルモノナルカ我船舶保護ノ任ニアル海軍力報復手段ニ出テタルハ當然ノ措置ト言ハサルヲ得ス尤モ當地ニテ議論ヲ重ヌルモ無益ナルヘク依テ蘇側ハ琴平丸ヲ又日本側ハ蘇側監視船「ペシコフ」ヲ相互ニ無條件ニ釋放スルコトシテハ如何ト述ヘタルニ「ソ」ハ琴平丸船長ハ其ノ不法ヲ認メ保證金ノ提供ヲサヘ申出テタル成行モアル次付蘇側トシテハ飽迄同船ヲ裁判ニ附スルコトヲ主張スヘク本使私案ノ如キ妥協ニハ應シ難シト答ヘタルニ依リ本使ハ船長カ保證金ノ提供ヲ申出テタルハ不法ヲ認メタル爲ニアラスシテ一日モ早ク漁撈ニ從事センカ爲「アンダ」、プロテスト」ニテ申出ヲ爲セルモノナリ漁期中斯ル事件ハ往々起ルヘキ力日本側トシテハ成ル可ク地方的ニ解決方希望シ居リタルモ既ニ蘇側ニ於テハ本件ニ付東京ニ於テ交渉ヲ開始セラレタリトセハ其ノ經過ヲ見ルノ外ナカルヘシト應酬セシニ「ソ」ハ本日ハ他ニ所用アルニ付

浦潮ヨリ哈府へ暗送アリタシ

本件ニ關シテハ日本漁船ノ蘇聯領水侵犯ニ關スル多クノ事例ト共ニ他日改メテ會談スルコト致度シトテ會談ヲ打切リタリ

「ペトロ」ヘ轉電アリタシ

浦潮ヨリ哈府へ暗送アリタシ

浦潮ヘ轉電セリ

382 昭和8年7月24日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使 在ウラジオストク 渡辺(理恵)總領事宛(電報)

ペシコフ号拿捕につき在本邦ソ連大使の抗議

文回示について

本省 7月24日後5時発

合第一四四九號 在「ペトロ」緒方領事發本大臣宛電報第四六号

(本文轉電ノ「」)

以書翰啓上致候陳者本國政府ヨリ接到セル正確ニシテ疑問ノ餘地ナキ情報ニ依レハ日本國驅逐艦第四號(註、第四驅逐隊ノ意カ)ハ本月十九日午前二時十分勘察加半島「ヤヴ

イノ」河地方ニ於ケル「ソ」聯邦ノ領海内ニ於テ折柄漁撈ニ從事中ノ「ソヴィエト」發動機船「アレクセイ、ペシコフ」號ヲ夜陰ニ乗シ強力ヲ以テ拿捕シ南方ニ運行セル趣ニ候

右事實ヲ閣下ニ通報スルト共ニ本使ハ兩國ノ平常且善隣ノ

關係ニ於テ豫期セラレサル日本國軍艦ノスル行爲ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ提出シ並ニ拿捕發動機船ノ即時返還及拿捕ニ當リタル違反者ノ處罰ヲ要求スヘキ旨本國政府ノ命ニ接シ候

本使ハ閣下ニ對シ能フ限り速ニ右ニ對シ措置振ニ付御通報相成様希望致候

本使ハ茲ニ閣下ニ對シ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十三年七月二十四日

力、ユレネフ

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

383 昭和8年7月26日 在ベトロパウロフスク緒方領事より  
内田外務大臣宛(電報)

第二琴平丸判決の不当に關し先方に申入れた

留意シ場合ニ依リテハ現場ノ調査ヲモ爲ササルヘカラサリシナリ然ルニ事茲ニ出テラレサリシハ遺憾ナリ殊ニ判決文中「刑法第八十四條及第八十六條ニ依ル山崎ノ犯罪ノ事實ハ其ノ反駁文ハ悉ク之ヲ否認シ居ルト雖モ公判廷ニ於テ何等之ヲ立證セサリシヲ以テ明白トナレリ又裁判所ノ質問ニ對シテモ被告ハ英（語）又ハ日本語ニテモ何等申立ヲ爲スヲ拒メリ

<sup>(2)</sup> 又裁判開廷前九百圓ノ「罰金」納入ヲ承諾シ乍ラ後ニ至リ之ヲ拒絶セルコトニ於テ其ノ犯行ヲ立證シテ餘リアリ」云々トアル處右ニ付山崎ノ本官ヘノ申立ニ依レハ同人ハ自ラ犯行ヲ認メス從テ強制的ニ出頭セシメラレタル裁判所ニ於テ審問ヲ受クル義務ナシト思考シタルカ故ニ裁判所ニ何等申立ヲ爲スヲ拒絶セル次第ナリ又「罰金」ナル語ニ付テハ山崎ハ初メテ之ヲ聞ケリ何トナレハ七月八日貴下カ本官ヲ通シテ同人ニ告ケラレタル時ハ「罰金」ト言フ語ニ非スシテ「保證金」ト言フ語ナリシナリ從テ山崎ハ單ニ之ヲ裁判以外ノ方法ニ依リ其ノ事實ノ判明スル迄「アンドー、プロテスト」ニ納入スヘキ保證金ノ意味ニ解セリ若シ同人ニシテ自ラ其ノ犯行ヲ裏書スルカ如キ「罰金」ノ意味ニ解シタル

申入レニ対スル回答ヲ承リ度シト述ヘタルヲ以テ本大臣ハ実ハ今回ノ事件ハ琴平丸力公海ニ於テ漁業ニ從事セルニ拘ハラス蘇側ハ領海内ノ漁獲ニ從事セリトテ不法ニ同船ヲ抑留シタルニ端ヲ發シタルモノニテ貴方ハ我方ノ現場共同調査ノ提案ヲ却ケ交渉ヲ無視シ裁判ニ附シタル為同方面出漁ノ日本臣民保護ノ任ニアル出先海軍ハ憤慨ノ余リ偶々同船ヲ抑留セル「ペ」号ニ遭遇セル為之ヲ抑留シテ問題ノ解決ヲ速ナラシメントシタルニ外ナラス然ルニ蘇側ニ於テハ二十三日琴平丸ニ対シ遂ニ判決ヲ下セリ事件ヲ此儘ニ放任セハ如何ナル事態ヲ見ルヤ予測シ得サルヲ以テ互ニ非常ノ困難ハアルモ双方ノ抑留船ヲ釋放スルコトヽシ事件ヲ解決シテハ如何ト述ヘタルニ「ユ」ハ本大臣ノ説明ニ失望セリトテ軍艦ノ行動ヲ非難シ「ペ」号ハ直チニ釋放セラレタシ琴平丸抑留ニ付テハ日本政府ノ主張ハ充分傾聴スル用意アリ去レトモ両船舶ヲ相互ニ同時ニ釋放スルト云フカ如キコトハ應諾不可能ナリ今回ノ事件ハ(一)先ツ「ペ」号ヲ釋放シ(二)琴平丸ニ付テハ蘇聯邦政府ハ日本政府ノ希望ヲ考量スルコトヽシテ解決シタシト述ヘタルヲ以テ本大臣ハ我方ヲ非議スルガ如キ「ユ」ノ言説ニ断乎タル反駁ヲ加ヘ其ノ反省ヲ

ナランニハ其ノ當時既ニ九百圓ノ納入方ニ付拒絶シタルヘキハ勿論ナリ又「後ニ至リ拒絶云々」ハ山崎自身ノ發意ニ依ルモノニアラサルコトハ貴下ノ御承知ノ通ナリ露、浦潮ニ轉電アリタシ

浦潮ヨリ哈府へ暗送アリタシ

384 昭和8年7月28日 内田外務大臣より 在ソ連邦大田大使宛（電報）

第一琴平丸、ペシコフ号抑留に関する在本邦  
別電 七月二十八日発内田外務大臣より在ソ連邦大使  
田大使宛第二一九号

ペシコフ号抑留に關し在本邦ユレネフ大使から  
の抗議公文

第二一八號

貴電第四〇九号ニ閑シ  
七月二十四日附公文ヲ以テ別電第二一九号ノ通り「ユ」大使ヨリ抗議越シタル処同大使ハ二十七日本大臣ヲ來訪シ右

本省 7月28日後9時40分発

斯くてハ「ペ」号モ裁判ニ付セラルヽコトヽナルヘシ蘇側ニ於テハ何故琴平丸抑留地點ニ付共同調査ヲナスコトニ同意セラレサリシヤト尋ネタルニ「ユ」ハスル問題ニ閑シテケート」ナレハ蘇側ニ於テハ本件ハ一切新聞等ニ掲載セシメス又本大臣宛「ノート」ノ内容モ發表シヲラサルニ付日本側ニ於テモ同様ニ取計ハレソコトヲ希望スト述ヘタルヲ以テ本大臣モ之ニ同感ナリト告ケ更ニ蘇側判決ニハ十四日ノ控訴期間ヲ設ケアル故右ニヨリ控訴ヲ申立テ判決ヲ取消ス様取計フコト如何ト尋ネタルニ「ユ」ハ自分一個トシテ

ハ至極同感ナリ（此吳二十八日取消シ来レリ）只控訴ニヨ

リ第一審ノ判決ヲ取消スコト判明セハ其判決前ニ先ツ「ペ」

号ヲ釋放セラレタント述ヘタルニ依リ本大臣ハ琴平丸ニ対

スル控訴判決前先ツ「ペ」号ヲ釋放スルコトハ困難ナルヘ

キモ控訴ノ結果裁判力必ス第一審ヲ取消スヤ右ノ点ニ付文

書ニテ保証ヲ与ヘラル、ヤト尋ネタルニ「ユ」ハ裁判ハ独

立ナルモ政府ヨリ勧告ヲ与フルコトハ可能ナリ但シ文書ニ

テ保証ヲ差上クルコトハ不可能ナルモ政府ヲ代表シテロ頭

ニテ公ニ申上クレハ充分ナルヘシト答ヘタリ次テ本大臣ハ

解決ノ他ノ方法トシテハ判決ニ觸レス事實上琴平丸ヨリ没

収シタル魚網ヲ返還シ退去入國禁止ノ決定ヲ実行セサルコ

ト、スレハ如何ト述ヘタルニ「ユ」ハ夫レモ確ニ一案ナリ

ト述ヘタリ依テ本大臣ハ更ニ才互ニ解決案ヲ研究スルコト、

シ問題ノ再考ヲ約シタント述ヘタルニ「ユ」ハ莫斯科ニ詳

細本日ノ會見ヲ報告シ訓令接到次第重ネテ會見シタキ旨ヲ

述ヘ辞去セリ

別電ト共ニ「ペトロ」浦塩ニ轉電セリ

浦塩ヨリ哈府ヘ暗送アリ度

（別電）

本省 7月28日後8時発

第二一九號

本国政府ヨリ接到セル正確ニシテ疑問ノ余地ナキ情報ニ依

レハ日本駆逐艦ハ本月十九日午前二時十分「カムチャツカ」

半島「ヤヴィノ」河地方ニ於ケル「ソ」聯邦領海内ニ於テ

折柄漁撈ニ從事中ノ「ソヴェイエト」「トロール」船「ペシ

コフ」号ヲ夜陰ニ乗シ強力ヲ以テ拿捕シ南方ニ運行セル趣

ナリ

右事実ヲ閣下ニ通報スルト共ニ本使ハ両国ノ平常善隣関係

ニ於テ予期セラレサル日本軍艦ノ斯ル行為ニ對シ嚴重ナル

抗議ヲ提出シ並ニ拿捕「トロール」船ノ即時返還及拿捕ニ

当リタル違反者ノ処罰ヲ要求スヘキ旨本国政府ノ命ニ接シ

タリ

就テハ能フ限リ速ニ右ニ對スル措置振ニ付御通報ヲ希望ス

385 昭和8年8月1日 在ソ連邦大田大使より

内田外務大臣宛（電報）

漁業をめぐる紛争防止に關しソコリニコフ外

務人民委員代理と会談について

別電 八月一日発在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛第四一五号

臣宛第四一五号  
漁業紛争防止に関する日本側要望に対するソ連側回答

モスクワ 8月1日 発

本省 8月2日前着

往電第四一〇號ニ關シ

三十一日「ソコルニコフ」ヲ往訪セルニ「ソ」ハ我方要望

ノ五ヶ條ニ對スル回答トシテ大要別電第四一五號ノ「メモ」

ヲ手交シ蘇側地方取締官憲力銃器ヲ使用セサルヘキ點ニ付

テハ既ニ出先官憲ニ對シ特ニ必要ナキ限り銃器ヲ使用スル

事ナキ様訓令シ置ケリト述ヘ其他ノ點ニ付テハ別電ノ趣旨

ニ依リ大體ノ説明ヲナシタル後日本軍艦力長期ニ亘リ蘇側

領水附近ニ滯在スル事ハ非友誼的態度ニシテ日本當業者ノ

不節度ヲ刺戟シ徒ラニ事態ヲ紛糾セシムルヲ常トスルニ付

將來之ヲ差控ヘラレ度ク又將來ノ紛議ヲ防止スル爲十二海

里水域内ノ漁業ニ關スル協定ヲ締結スル事必要ナリ右ニ付

（五）十二海里水域問題ノ點ニ付我方ハ領海三海里主義ヲ執ル

ヲ以テ蘇側ノ希望スル力如キ協定ニ應スル事困難ト認ム

尤モ右ニ付兩國間ニ主義上ノ諒解アリトノ點ニ關シテハ

一應取調フル事トスヘキ旨ヲ屢說セル處

「ソ」ハ右（一）ニ付テハ共同調査ト同時調査トハ自ラ別個ノ問題ナリ前者ニ於テハ共同裁判及共同ノ法令ヲ有スヘク右

ハ司法主權ノ上ヨリ蘇側ニ於テ同意スル事困難ナルコト及後者ノ場合即チ兩國官吏力同時ニ同一事件ヲ同一場所ニ於テ調査スル事ニ對シテハ蘇側ニ於テ何等異議無キ所ニシテ

蘇側力之ニ便宜ヲ供與シ居ル事ハ「オリガ」事件ニ徵スルモ明カナリトナシ

(二)ニ付テハ日本領事官力事實ヲ正當ニ傳ヘントスルモノナルニ於テハ其ノ出張調査及通信等ニ付蘇側ニ於テ充分便宜ヲ計ルヘキモ領事官力公海ニ在ル軍艦ニ赴ク場合ハ國境ヲ越ユルモノナルニ付當然其ノ都度許可ヲ得ルヲ要ス尤モ蘇側ハ之ヲ禁止スルニ非ス尤モ一國ノ軍艦力他國ノ沿岸ニ長期ニ亘リ遊弋スルハ決シテ平常ノ狀態ニ非斯ル措置ハ相手國ノ感情ヲ大イニ害スル事勿論ナリトテ往電第四一六號ノ如ク琴平丸事件ニ言及シ

(三)ニ付テハ蘇側當局力日本船舶トノ交信ニ應セサルカ如キ

事例アラハ注意スヘキニ付隨次御通報アリ度シト述ヘ

(四)ニ付テハ日本軍艦力常駐スルニ至レルハ一九三〇年以來ノコトニシテ右ニ關シテハ日本側ノ親善ナル態度ヲ疑ハサルヲ得サル旨繰返シ強調シ

(五)ニ付テハ蘇側ニ於テ日本漁業家ノ利益ヲ尊重シ其希望ヲ

満足セシムル様協定セントスルモノニシテ決シテ日本當業者ノ行動ニ制限ヲ加ヘントスルニアラス

トノ趣旨ヲ述ヘタリ

依テ本使ハ右軍艦ニ關スル貴見ハ之ヲ本國政府ニ報告スヘキモ此等ノ軍艦ハ公海ニ於ケル我漁業ヲ保護シ居ルモノナルニ付之ニ對シ非難ヲ受クルノ理ナシ尙從來領事館員ノ軍艦トノ交通ハ兎角圓滿ニ行ハレサル趣ナリトテ其實例ヲ知レル島田書記官(本使帶同)ヲシテ説明ヲ爲サシメ領事官力軍艦ト往來スルハ自國領土往來スルニ等シキ筋合ナリト說キ我方力領事館員ニ對シ一漁期間有效ノ包括的通過證ノ如キモノノ發給ヲ蘇側へ求ムルハ領事館員力陸岸ヨリ公海ニアル我艦船ニ往來スルコトニ對シ包括的許可與ヘラレタシトノ趣旨ナリトテ我方ノ要望ヲ繰返シ置ケリ

尙別電ノ「メモ」ヲ一瞥スレハ蘇側ハ我方要望ノ多クヲ拒否セルカ如ク解セラルモ以上ニテ御承知アルヘキカ先方ノ説明ヲ吟味セハ實質上蘇側ハ我方要望ヲ大体容認シ居ル次第ト認メラル處更ニ會見ノ上先方ノ意向ヲ明確ニスルコトトナスヘキモ何等御氣付ノ點アラハ御回電アリタシ

「ペトロ」ヘ轉電アリタシ

(別電)

モスクワ 8月1日後発  
本省 8月2日前着

第四一五號

(<sup>①</sup>)七月十日大田大使ヨリ「ソコルニコフ」ニ手交ノ「エドメモアル」中ニハ蘇政府ニ於テ到底受諾シ能ハス且其審議ニ入ルコトヲ得サル提案アリ

蘇政府ハ將來事件ノ發生豫防上重大ナルコトハ紛爭發生防止ノ嚴命ヲ受ケ居ル國境警備隊ノ行動ニ關スル諸規則ニアラスシテ日本漁船力蘇聯水城<sup>(城)</sup>ノ境界及國境規則ヲ遵守スルニアリト認ム何トナレハ之ヲ遵守セサルコトカ事件發生ノ原因ナレハナリ

大田大使ノ提案中其審議力蘇政府ノ見解ニ依リ可能且妥當ナル部分左ノ通

(<sup>②</sup>)日ソ外記入二)將來事件發生ノ場合ニハ地方官憲ハ事件ヲ在「ペトロ」日本領事館員ニ通報ス事件發生地力同領事館ノ管轄區域内ナル時ハ館員力事件ノ情況ヲ調査セル當該蘇官憲ヨリ速ニ通

報ヲ受クル爲現行法規遵守ノ上現場ニ出張スルコトハ國際慣例ニ從ヒ支障ナカルヘシ右出張ニ際シ地方官憲ハ必要ナル便宜ヲ供與ス

管轄區域外ニ於テ事件發生シタル時ハ同領事館員力前記ト類似ノ目的ヲ以テ現場ニ出張スル問題ハ事件ノ性質ニ應シ其都度當該官憲ノ許可ヲ取付クルヲ要ス

「カムチャツカ」ノ交通不完全ナルニ鑑ミ蘇政府ハ軍艦以外ノ日本政府ノ船舶又ハ日本漁業家ノ船舶ニ對シ現場附近諸地點ニ數次立寄方ヲ許可セリ蘇政府ハ在「ペトロ」日本領事館員力昨年實行シ又現ニ實行シ居レル如ク日本漁業家ノ船舶ニ便乗シテ出張スルト共ニ漁區出張ノ爲金鷦丸ヲモ利用シ得ル様考慮シ交通事情ノ許ス限り將來ニ於テモ其許可ヲ與フル用意アリ

在「ペトロ」日本領事館員力領海ニ於ケル各種日本船舶ニ便乘シテ出張スルコトハ從來行ハレタル如ク其都度當該地方官憲ノ許可ヲ取付クルニ於テハ差支ナシ

蘇聯無電局ハ海岸タルト船舶上タルトヲ問ハス國際規程ニ

尚蘇政府ハ近年行ハレツツアル如ク日本軍艦力蘇聯太平洋  
沿岸眞近ニ常ニ碇泊スルコトハ平常ナラサル現象ニシテ且  
兩國間ノ現存善隣關係ニ適應セサル不親睦ノ表明ト看做ス  
ヘキコトヲ指摘ス軍艦ノ存在ハ日本漁業家ノ或者ヲシテ蘇  
聯領水ノ境界ヲ無視シ且此等領水内ニ實施セラレツツアル  
法律規則ヲ無視スル傾向ヲ明カニ生セシメ居レリ更ニ之等  
軍艦ノ司令部ハ遺憾乍ラ既ニ蘇政府ノ斷乎タル抗議ヲ誘致  
セル專斷的不法行爲ヲ自ラ抑制シ居ラス又軍艦ハ其他ノ日  
本船舶ヲモ不法行爲ニ引入レ居ル處實際ニ微スルモ日本軍  
艦司令部ノ行動ハ徒ニ事態ヲ紛糾セシメ又蘇聯水域ニ於ケ  
ル日本臣民ノ漁業ニ關聯シテ發生スル問題ノ迅速且有效的  
解決ニ向テ障碍ヲ與フルニ過キス蘇政府ハ蘇水域ニ於ケル  
日本臣民ノ漁業ニ平常ナル事態ヲ生セシムル爲最モ實際的  
ナル方法トシテハ第一蘇聯沿岸ニ於ケル日本軍艦ノ永キ碇  
泊ヲ中止シ第二蘇聯海岸附近十二海里ノ水域ニ於ケル日本  
臣民ノ漁業ニ關シ速ニ協定ヲ締結スルニアリト認ム右協定

(欄外記入三) 準據シテ他ノ無電局ヨリ發セラル無電ヲ受信シ來リ又今  
後モ受信スヘク其内ニハ日本無電局ヨリ發セラルモノモ  
アリ該手續ヲ履行セサルカ如キ事例ナン  
尙蘇政府ハ近年行ハレツツアル如ク日本軍艦力蘇聯太平洋  
沿岸眞近ニ常ニ碇泊スルコトハ平常ナラサル現象ニシテ且  
兩國間ノ現存善隣關係ニ適應セサル不親睦ノ表明ト看做ス  
ヘキコトヲ指摘ス軍艦ノ存在ハ日本漁業家ノ或者ヲシテ蘇  
聯領水ノ境界ヲ無視シ且此等領水内ニ實施セラレツツアル  
法律規則ヲ無視スル傾向ヲ明カニ生セシメ居レリ更ニ之等  
軍艦ノ司令部ハ遺憾乍ラ既ニ蘇政府ノ斷乎タル抗議ヲ誘致  
セル專斷的不法行爲ヲ自ラ抑制シ居ラス又軍艦ハ其他ノ日  
本船舶ヲモ不法行爲ニ引入レ居ル處實際ニ微スルモ日本軍  
艦司令部ノ行動ハ徒ニ事態ヲ紛糾セシメ又蘇聯水域ニ於ケル  
日本臣民ノ漁業ニ平常ナル事態ヲ生セシムル爲最モ實際的  
ナル方法トシテハ第一蘇聯沿岸ニ於ケル日本軍艦ノ永キ碇  
泊ヲ中止シ第二蘇聯海岸附近十二海里ノ水域ニ於ケル日本  
臣民ノ漁業ニ關シ速ニ協定ヲ締結スルニアリト認ム右協定

二付テハ蘇聯及日本間ニ既ニ千九百三十一年主義上ノ商議  
ヲ遂ケタリ此等對策ノ實行ハ勿論最近發生セル障礙及事件  
ヲ除去スルニ效果アルヘシ云々

「ペトロ」ヘ轉電セリ

## (欄外記入一)

十二里水帶ヲ規定セル規則ヲ遵守シ得ズ

## (欄外記入二)

沿岸無線局ヨリ船舶無線局ヘノ發信如何

## (欄外記入四)

遂ゲタルニ非ズ商議セルコトアルモ、具体的の審議ニ入ラズ  
泊ヲ中止シ第二蘇聯海岸附近十二海里ノ水域ニ於ケル日本  
臣民ノ漁業ニ關シ速ニ協定ヲ締結スルニアリト認ム右協定

386 昭和8年8月2日 重光外務次官 在本邦ユレネフソ連邦大使 会談要領

## 第一琴平丸およびペシコフ号抑留事件対策に

ついて

八月二日次官「ユレー・ネフ」大使會談要領  
(第二琴平丸及「ペシコフ」號抑留事件)  
第二琴平丸事件ニ付次官ヨリ「モスコー」ヨリノ回電アリ  
タリヤ否ヤヲ質シ大使ヨリ未タ回電無キ旨應答アリタル後  
右事件ニ關シ會談セル要領左ノ通

次官

第二琴平丸及「ペシコフ」號抑留ニ關スル日本政府ノ態度  
ニハ依然變化ナシ然シ乍ラ「ペ」號ノ抑留長引クニ伴レ乘  
組員ノ食糧欠乏ノ惧アルニ鑑ミ人道上ノ見地ヨリ船員ノミ  
ヲ釋放スルコトニ決定セリ右取計ハ日本側ガ事件解決ノ爲  
ニ示ス誠意ノ一端ナルニモ鑑ミ内田大臣ノ考案ニ基キテ速  
カニ事件ヲ解決スル様貴大使ヨリモ御盡力ヲ希望ス  
大使

先ヅ船舶ガ何處ニ抑留セラレ居ルモノナルヤヲ承知致シ度  
シ右通報ヲ受クベキ権利ヲ有スルモノト思考ス尙若シ船員  
ノミ釋放セラルルコトニモナラバ内田大臣ノ考案ニヨリ事  
件解決セラルルガ如キ場合船舶ハ船員無キニ依リ回航ニモ  
支障ヲ來スニ非ラズヤ

船員ニ對スル御配慮ハ之ヲ多トシ感謝スルモ船員トシテモ

船ノ所在地ハ「エトロフ」島ト聞キタルガ海軍ニ於テ所管  
シ居ルコトナレバ正確ナルコトハ取調べ御知ラセスベシ尙  
釋放ノコトハ原則トシテ本日午後決定シタルバカリナレバ  
詳細ノコトハ協議シ居ラズ日本側トシテハ主義トシテ船舶  
ト共ニ船員ヲ釋放スルコトニ異存ナキ處ナルモ右ハ琴平丸  
ニ對スル讓歩的取計ヲ條件トス若シ「ソ」側ニ於テ斯ル取  
計ヲナシ得レバ日「ソ」國交ノ大局上結構ノコトナリ日本  
側ニテハ目下「ペ」號ニ食糧欠乏ノ事實ニ鑑ミ人道上ノ見

地ヨリ釋放スルコトニ決定シ誠意ノ一端ヲ示セル次第ナリ

大使

人道的考慮ハ之ヲ多トスルモ食糧品ノ供給ノ如キハ日本政府ノ當然ニシテ直接且神聖ナル義務ト思考スルニ付船員ノミ釋放スルコトハ受諾スルコトヲ得ズ

琴平丸ニ關シテハ裁判ニ於テ罰金ヲ課シ釋放シタルガ右ハ何等報復手段等ノ意味ニ非ズ全ク普通ノ取計ナリ然ルニ「ペシコフ」號ハ報復手段トシテ抑留セラレタリ從ツテ右二個ノ行爲ハ互ニ異リ交換的ノモノトナシ得ズ「モスコー」ノ見解ハ既ニ公文ヲ以テ申上ゲタル通リナレバ此ノ際「ペ」號ハ釋放セラレントヲ希望ス

「ソ」側トシテハ本件ガ輿論ヲ刺戟スルコトヲ慮リ新聞等ニ發表セズ「ペシコフ」號釋放セラルル場合モ亦之ヲ發表セザル可シ  
尙琴平丸ハ二三日前得タル情報ニ依レハ小額ノ罰金ヲ課セラレ釋放セラレタル趣ナルガ在「ペトロ」領事ハ曩ニ九百圓ノ罰金支拂ヲスマ承諾シタルニ裁判ノ決定ハ右ニ比シ輕キモノナリ尙控訴期間モ十四日間ト定メラレ居レリ

次官

ニ於テモ何等發表シ居ラズ

(二)罰金ニ付テハ日本領事ニ於テ九百圓ノ罰金納付ヲ承諾シタルコトナシ唯九百圓ノ保證金ヲ供託スルコトニ同意セルモ右ハ交渉解決後取り返ス心算ナリシコト勿論ナリ

尙内田大臣ノ考案ガ採用セラルル場合ハ或ハ控訴ノ手續ヲトル必要アルベキ所ニ二週間ノ期限モ迫リ居ルニ付「ソ」側ニ於テ至急回答セラルル様致シ度ク萬一期間ニ間ニ合ハザルガ如キ場合ハ「ソ」側ニ於テ右期間延長方御配慮アリ度シ大使

控訴ハ「ソ」側ノ義務ニ非ラズ日本領事ヲシテ手續ヲ取ラ

シメ得ベシ又控訴期間延期ニ就テハ法律上可能ナルヤ否ヤ之ヲ審ニセズ領事ガ九百圓ヲ供託スルコトニ同意セルコトハ日本側ガ自ラ正當ナリトノ自信ヲ缺クコトヲ示スモノニ非ズヤ

乗組員ノ釋放ハ「ソ」政府ノ希望ト合致セズ從ツテ反対セザルヲ得ズ船員ノミ釋放セラルルガ如キハ益々問題ヲ紛糾セシメ交渉ヲ長引カシムル所以ナリ

船員ノ釋放ハ人道的見地ヨリ出デタル措置ナリト雖モ船員ガ船舶ニ残リタリトテ日本政府ニ於テ食糧ノ供給及醫療ノ

只今大使ヨリ四段ニ分チテ御話アリタルガ其ニ御答スベシ

(イ)食糧ノ供給及醫療ノ措置ニ付テハ船舶ヲ拉致セシ國ノ當然ノ義務ナリトノ御說ナルガ右理論ハ別トシテ人道的ノ取計ヲ爲スニ對シテハ何人モ異論無キ所ナル可シ何分事情モ判明セサルニ付如何ナル方法ガ最モ適切ナルヤ否ヤハ現場官憲ニ委スルヨリ外致方無シ釋放スルコトガ最モ人道的取計ナレバ其ニ依ラザルベカラズ

(ロ)事件ノ内容ニ付テハ既ニ大臣大間ニ十分御話済ノコトナレバ茲ニ之ヲ繰返スハ餘計ナルガ大使ノ熱誠ナル御話モアルニ付茲ニ言及スベキ處實ハ琴平丸ニ付テハ現場領事ヨリモ亦大臣ヨリモ事件ノ共同調査ヲ求メタルニ拘ラス「ソ」側ハ一方的ニ裁判ヲ進メ罰金ヲ課シタルニ今日船舶ハ釋放セラルト雖モ右裁判ハ日本側ニトリ極メテ不愉快ナル措置ナリ此ノ上ハ日本側トシテモ「ペシコフ」號ヲ裁判ニ附セザルヲ得ズ然シ乍ラ斯クシテハ益々紛糾ヲ來スノミナルニ鑑ミ内田大臣ハ曩ニ御承知ノ如キ「サジエッシンヨン」ヲナセラタル次第ナレバ「ソ」側ニ於テモ右ニ依リ決定セラレントヲ期待ス

(ハ)本件ニ付之ヲ新聞ニ發表セサルコトハ同感ニシテ日本側次官

措置ニ付配慮セラルベキコトハ吾人ノ此レヲ疑ハザル所ナリ

「ソ」大使ノ説明ノ三點ニ付反駁セザルヲ得ズ殊ニ控訴ニ就テハ強ク反駁ス元來日本側ヨリ共同調査ヲ提議セルキ「ソ」側ハ之ヲ容レズ又事件交渉中ナルニモ拘ラズ之ニ顧慮スルコトナク一方的ニ判決ヲ下シ罰金ヲ課シタルニ之甚ダ不誠意ノ措置ナリ然シナガラ我方ハ内田大臣ノ考案ニヨリテ話ヲ取り纏メントスルモノニシテ「ソ」側ノ誠意アル措置ニ期待スル譯ナリ

領事ガ保證金納入ヲ諾シタルコトヲ日本側ノ弱點ノ如ク云ハルハ誤リナリ船舶ハ強力ニヨリテ抑留サレ居リシガ爲成ルベク早ク出港シ其ノ損害ヲ尠カラシメントシタルニ過ギズ

乗組員釋放ニ反対セラルルハ意外ナリ人道的見地ヨリ最善ノ取計ラヒヲナスハ遠隔地ノコトニモアリ現場官憲ニ委セルヨリ外ニ致シ方ナシ

大使



テ送リ届ケラレタルヤ例ヘバ船ヲ傭入レタルモノナリヤ否  
ヤ等承知致度  
又昨日此処ニ會談シ居リシ時ハ既ニ釈放ニ関スル海軍ノ命  
令発セラレ居リシニ非ズヤ果シテ然ラバ吾々ハ何等此処ニ  
議論スル必要モ無カリシニ非ズヤ總テハ自分ニ対シ沈痛ナ  
ル印象ヲ与フ、此ノ上ハ事情ヲ政府ニ報告シ問題ノ進展ヲ  
俟ツヨリ外ナシ

次官

自分ハ「ペ」号船貞釈放ニ関スル決定ヲ御傳ヘシタルモノ  
ニシテ同意ヲ求メタルニ非ズ只今ノ御話ニ依リ双方ニ誤解  
ノ矣アリシコト判明シタルガ右ハ次ノ事情ニ基クモノト思  
考ス自分ハ「ソ」政府ノ希望ニ反シテ迄釈放スル意思ナキ  
ガ故ニ御反対トアラバ出来ル丈盡力スベシト約シタル次第  
ナルモ其レハ自分ノ力ノ及ブ範囲ヲ條件トスルヤ勿論ナリ  
当方ニテハ道上ノ見地ヨリ執レル措置ノコトナレバ全ク  
反対ヲ豫期セズ貴大使スラ最初感謝ノ意ヲ表セラレタル程  
ナリ然ルニ後ニ反対アリタル為御希望ニ副フ様盡力ヲ約シ  
タルモ現場ニ於ケル切迫セル事態ハ之ヲ許サズ、自分ノ努

又昨日此処ニ會談シ居リシ時ハ既ニ釈放ニ閲スル海軍ノ命令発セラレ居リシニ非ズヤ果シテ然ラバ吾々ハ何等此処ニ議論スル必要モ無カリシニ非ズヤ總テハ自分ニ對シ沈痛ナル印象ヲ与フ、此ノ上ハ事情ヲ政府ニ報告シ問題ノ進展ヲ俟ツヨリ外ナシ

船貞ノ送還方法等ニ付テハ十分ナル情報ナク當方ノ承知ス  
ル処ニテハ遠隔セル島々、「ペ号」及一駆逐艦アリシ「ノ  
ミナルガ事情判明次第御知ラセスベシ海軍ノ命令關係ニ付  
テモ承知セズ

御尋ネノ二点ハ別個ノコトナリ急迫セル事態ニ於テ人道的措置ヲトルハ止ムヲ得サルコト、思考ス、又貴大使ノ釈放反対ニ依リ当方トシテハ根室ニ回航スル様打合セタルモ事実不可能ナリシコト説明セル通ナリ

本使トシテハ昨日船貟ノミヲ釈放シ船舶ヲ留メ置クニ反対シタル通り依然右反対ヲ維持ス

當方トシテハ本件ノ如キ派生的事件ニ依リ事態ヲ悪化スル意思ナキヲ申上置クベシ

自分ハ一々号船負积放ニ関スル決定ヲ御傳ヘシタルモノ  
ノシテ同意ヲ求メタルニ非ズ只今ノ御話ニ依リ双方ニ誤解  
ノ矣アリシコト判明シタルガ右ハ次ノ事情ニ基クモノト思  
考ス自分ハ「ソ」政府ノ希望ニ反シテ迄积放スル意思ナキ  
ガ故ニ御反対トアラバ出来ル丈盡力スベシト約シタル次第  
ナルモ其レハ自分ノ力ノ及ブ範囲ヲ條件トスルヤ勿論ナリ  
当方ニテハ人道上ノ見地ヨリ執レル措置ノコトナレバ全ク  
反対ヲ豫期セズ貴大使スラ最初感謝ノ意ヲ表セラレタル程  
ナリ然ルニ後ニ反対アリタル為御希望ニ副フ様盡力ヲ約シ  
タルモ現場ニ於ケル切迫セル事態ハ之ヲ許サズ、自分ノ努

本使トシテハ昨日船負ノミヲ釈放シ船舶ヲ留メ置クニ反対シタル通り依然右反対ヲ維持ス  
次官  
當方トシテハ本件ノ如キ派生的事件ニ依リ事態ヲ悪化スル意思ナキヲ申上置クベシ

タルモ現場ニ於ケル切迫セル事態ハ之ヲ許サズ、自分ノ努力ハ効果ヲ齎サドリシナリ

(欄外記入)

388  
昭和8年8月4日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

第三三四號  
本省 8月4日  
ペシコフ号船員釈放の経緯について

第三三四號

「ペシコフ」號ハ其後モ幌筵加熊別ニ抑留シ置キタル処糧食等漸次欠乏シ来レル為出先海軍ヨリハ曩ニ全船ノ内地回

依然先ツ「ペ」号ノ釈放ヲ要求スル態度ヲ示シ問題ノ解決手間取ル様觀取セラレ他方出先海軍ヨリハ「ペ」号ノ食料缺乏ハ人道上ノ問題ヲ惹起スル惧モアルヲ以テ船貞ノミハ此際至急釈放スルコト、致度キ旨申越アリタル旨ヲ以テ右

ト述べ頻リニ船貞ノミノ釋放ニ反対セルニ付次官ハ我方ニ

於テハ主義トシテ船舶ト共ニ船貞ヲ釋放スルコトニ異存無

キモ右ハ「ソ」側ヨリ琴平丸ニ對シ讓歩的取計アルコトヲ

條件トス是レ日「ソ」國交ノ大局上ヨリモ望マシキコトナ

リ糧食及医療ノ保障ガ船舶拿捕國ノ義務ナリト言ハル、モ

議論ハ別トシテ人道的取計ニハ何人モ異議ナキ処ナルベク

此際遠隔地ノコトニモアリ現場官憲ニ最善ト認ムル措置ヲ

執ル様委スルヨリ外致方ナカルベシト懇々説キ聞カセタル

モ「ユ」ハ遂ニ我方ノ好意的取計ヲ肯セズ我方ノ都合ニ依

リ「ペ」号ヲ乗組員ト共ニ根室ニ回航セシムルコト、ナラ

ハ「ソ」聯領事ヲ今地ニ派遣スルコト、スルモ差支無シト

答ヘ其他種々事情ヲ述ブル処アリタリ

依テ同日夜海軍省ニ對シ船貞釈放ヲ暫ク差控フル様申入レ

タルガ海軍側ニ於テハ既ニ釈放ノ手配ヲ了シ居リタル為間

ニ合ハズ三日朝同省着電ニ依レハ「ペ」号乗組員全部ヲ乘

セ西「カム」ニ向ヘル太刀風ハ「オゼルナヤ」官憲ニ正式

引渡方交渉シタルモ先方之ヲ肯ゼザリシヲ以テ三日午前三

時右船貞ヲ「オゼルナヤ」「アコ」<sup>(浅橋)</sup>ニ送リ届ケタル趣

(「ペ」号ハ依然加熊別ニ留置)ナルニ付右不取敢「ソ」

389 昭和8年8月4日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

「ペトロ」ニ轉電セリ

ペシコフ号船員釈放をめぐるソ連大使との会談について

本省 8月4日後6時0分発

第二二五號

往電第二二四號末段在京「ソ」大使館ヘノ通報ハ「ペシコ

フ」号船貞ノ釈放中止方ニ付テ當方ニ於テ必要ナル措置ヲ

執リタルモ間ニ合ハズ三日早朝船貞ハオゼルナヤ「アコ」

浅橋ニ送リ届ケラレタル趣旨ニ止メ置キタル処同日大使館

貞送還セラレタリトノ報道ニ喫驚シ右行動ニ對シテ抗議ス

ル旨申越アリタル後更ニ同大使次官ヲ來訪シ日本政府ハ當

方ノ希望ニ反シテ迄船貞ヲ釈放セサルモノト諒解シ居リタ

ルガ何故船貞ノミヲ「オゼルナヤ」ニ送還セルヤ又送還ハ

如何ナル方法ニテ行ハレタルヤト質問シタルニ付次官ハ日

本政府ニ於テハ人道的見地ヨリ船貞釈放ノ決定ヲナシタル

旨昨日之ヲ御傳ヘシタル處貴方ノ反対アリ右ハ我方ノ豫想

セザル所ナリシモ自分トシテハスル貴方ノ反対アル以上成

ルベク御希望ニ副ヒ度キ考ニテ出来ル丈ノ盡力ヲ約シタル

モ時間及地理的關係ノ為其ノ意ヲ果シ得ザリシ譯ニテ又事

実上幌筵島ニ於テ食糧缺乏ヲ告ゲタルコトナレバ其ノ切迫

セル事態ニ際シ出先海軍トシテハ北海道ヨリ遙カニ近キ問

題ノ地點ニ隣接セル堪察加ニ船貞ヲ送還スルヲ最善ノ方法

トシタル事情ハ之ヲ諒トセザルベカラズ尚送還方法ニ付テ

ハ後報ヲ俟テ説明スベキ旨答ヘタル処「ユ」ハ總テ日本側

ノ会談ニ於テ述ヘタル反対ヲ依然維持スル旨述ベタリ

ペトロニ轉電セリ

第二三三號

往電第二二五號ニ閔シ

九日「ユレーネフ」大使本大臣ヲ來訪「ペシコフ」號乗組

貞釋放ニ付テハ追テ公文ヲ以テ申入ルベキ処七月二十七日

ノ大臣ノ「サジェッショソ」(往電第二一八号参照)ニ付

テハ「モスコ」ヨリ「琴平丸」ガ「ソ」聯邦水域内ニ於

テ拿捕セラレタルニ反シ「ペ」号ハ公海ニ於テ報復又ハ対

抗手段トシテ拿捕セラレタルニ鑑ミ二個ノ事件ヲ同一ニ見

做ス能ハズ從テ七月二十四日附公文申入(往電第二一九号

参照)ヲ依然維持スベク尚右船舶釋放ノ問題トハ別ニ特ニ

船舶書類ノ返還方要求スル様訓令ヲ受ケタリ右書類就中航

海日誌等ノ抑留ハ日本側ガ琴平丸ノ罪状決定ヲ妨害セルガ

如キ印象ヲ与ヘ面白カラザルガ故ニ其ノ返還ヲ求ムル次第

ナリトノ趣旨ヲ述ベ尚「ペ」号ハ裁判ニ附セラルヘキヤ否

ヲ取消サブル限り「ペ」号ヲ抑留セザルヲ得サル旨述フル

ト共ニ書類ハ本件ヨリ切離シ返却シ得サルモ右ハ拿捕地点

ノ水深及右地点ガ公海ナリヤ否ヤヲ決定スルニ重要ナルベ

ク若シ之ヲ返却セバ「ソ」側ガ拿捕地点ノ再調査ニ関スル  
我申入ヲ應諾スル次第ナルニ於テハ海軍ニ照會スヘキ旨答  
ヘ尚「ペ」号ニ付テハ事件急速ニ解決セバ幌筵ヨリ船体ヲ  
釋放スベク長引クニ於テハ同地ガ不便ノ地ナルニ鑑ミ大湊  
ニ回航保管スヘキ旨答ヘ置キタリ  
「ペトロ」ニ轉電セリ

391 昭和8年9月1日 内田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

### 富美丸事件の善後措置に關し交渉方訓令

別電 九月一日發内田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛第二四九号

右交渉における我が方意向

本省 9月1日後8時0分発

第二四八號 貴電第四一四號ニ閏シ

「ソ」側ニ於テ出先官憲ニ對シ特ニ必要無キ限り銃器ヲ使用セサル様訓令セル旨明セルハ右訓令ガ將來嚴格ニ勵行セラルハコトヲ豫期シテ之ニ満足ノ意ヲ表スルモ(イ)我軍艦ナリ

ノ派遣並ニ(ロ)十二浬水域ノ漁業ニ閏スル協定等直接本件ニ  
關係無キ事項ニ付謂フ處ハ甚タ當ヲ得ズ事實ニモ相違シ居  
レリ即チ(イ)我軍艦ノ堪察加派遣ハ古キ歴史ヲ有シ出漁船ノ  
保護ニ任スルモノナルコト貴官ノ指摘セラレタル通ニシテ  
我軍艦ハ不法ニ露國法規ヲ侵犯セル邦人漁船ヲ保護スルガ  
如キ意向毛頭無之キ次第ナルヲ以テ今更右派遣ヲ以テ両国  
間ノ善隣關係ニ惡影響ヲ及ホスモノト為スハ甚シキ誤解ト  
謂フベシ又(ロ)十二浬水域内ノ漁業ニ閏スル商議ハ當時日  
「ソ」双方間ノ見解懸隔シテ何等具体化スルニ至ラサリシ  
問題ヲ複雜ナラシムルノミナラス今日ニ於テハ其ノ時機ニ  
アラズト認メラル仍テ右ノ事情ニ付テハ可然先方ニ説明シ  
置カレ度尚右以外ノ「ソ」側回答ニ對スル我方ノ意向ハ大  
体別電第二四九号ノ通ニ付右ニ依リ今一應「ソ」側ト御交  
渉相成度

(別電)  
本省 9月1日後8時0分発  
第二四九號

一、我出漁船ガ「ソ」聯邦距岸三浬線ヲ侵サバルコトニ付テ  
ハ我方ニ於テ銳意取締ノ方法ヲ講シツハアリ今後モ嚴格  
ニ之ヲ勵行セントスルモノナリ但シ「ソ」聯邦國境規則  
中ニハ十二浬水域ニ閏スル規定アリ我方トシテハ之ガ適  
用ヲ認メズ「ソ」側ニ於テモ我方ニ對シ三浬以上ニ事  
實上權力ヲ及ホサバ爾諒解ヲ与ヘオルコト御承知ノ通ナ  
リ

二、事件発生ノ場合ニハ「ソ」側地方官憲ハ事件ヲ在「ペト  
ロ」領事館ノ外漁場出張中ノ最寄領事館貟ニモ通報スル  
様致度又此等領事館貟ノ事件現場出張ニ當リテハ「ソ」  
官憲トノ同時調査ヲ以テ満足スヘキモ彼我孰レカヨリ要  
求アル場合ニハ遲滞無ク同時調査ヲ行フヘク之ニ對シ必  
要ナル便宜ヲ供與スヘキ旨ノ約束ヲ取付置キ度

三、我船舶ガ「ソ」聯邦領水立入ヲ必要トスル場合ハ其ノ都  
度審議セラルハトスモ右ハ遲滞無ク許可スルコト必要  
ナリ

四、「ソ」側ニ於テハ我領事館貟ガ公海ニ碇泊中ノ軍艦ニ赴  
ク必要アル場合之ヲ禁止スル意思無ク其ノ都度許可セラ  
ルハモノト認メラレ又軍艦ノ外農林省監視船其他本邦船

392 昭和8年9月14日 広田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)  
ソ連大使よりペシコフ号の釈放および損害賠  
償要求申入れに対し次官これを拒絶について

七  
廿四 | 九月十四日付在本邦ヨリネハソ連邦大使より

内田外務大臣宛へ  
シロフ号事件に対する抗議

II 作成日不明、広田外務大臣より在本邦ヨリ  
ヘソ連邦大使宛

右抗議に対する反讐

本省 9月14日後8時発

第二五五號

十四日「ヨシネーホ」大使重光次官ヲ來訪シ「ヨシナカ」  
即事件ニ付長文ハ「ハーネ」ヲ手交シ抗議ヲ提出スルト共  
ニ今船ノ釈放及損害賠償ヲ要求シタルニヨリ次官ハ其ノ何  
レリ対シテモ強ク拒絶シ且右事件ノ發生カ我方ノ共同調査  
其ノ他ノ提議ヲ拒絶セル「ソ」側ノ不誠意ナル態度ノ爲ナ  
ルコトヲ印象セシメ置ケリ右不取敢  
浦沢、「マヌロベカロフスク」リ摩電セリ浦沢ヨリ合府く  
贈送アリ度シ

(七  
廿四 | )

Tokio, le 14 september 1933

Excellency,  
I have the honour to inform Your Excellency of  
the following fact.

On July 18th the Japanese torpedo-boat No.4 has  
under cover of night forcibly seized the Soviet ship "Aleksei  
Peshkoff" near the shores of Kamchatka and took it  
away to Japan. Many Japanese official representatives  
in their subsequent statements explained this act on  
the part of the torpedo-boat No.4, as undertaken in  
reply to the detention in July of the Japanese vessel "Daini  
Kotohira-maru" effected by the Soviet frontier guard  
authorities, who at the time happened to be on board  
of the ship "Aleksei Peshkoff".

It is well known that the detention of the mentioned  
Japanese vessel was based on the charge of its being  
unlawfully engaged in rapacious activity within the  
limits of the territorial waters of USSR. The frontier  
guard officials acted in accordance with the laws of the  
USSR now in force ; they brought the ship to the

nearest administrative spot of the USSR and handed  
the ship over to the corresponding authorities for a  
proper trial of the affair.

The Government of USSR deems it not possible  
to discuss here the question of the degree, to which  
the said charge is well founded, which constitutes now  
a matter of court's investigation, but it states that this  
measure of the Soviet frontier guard authorities was  
fully warranted by law. In such circumstances the  
above mentioned act of the Japanese torpedo-boat No.4  
towards the Soviet ship "Aleksei Peshkoff", which  
only executed its unscriptable duties, relative to the  
guard of the Soviet frontier, and handed the Japanese  
vessel over to the judicial authorities, cannot be  
warranted by any legitimate reason.

This act cannot be considered but as an obvious  
violation of the everywhere recognised stipulations of  
the international law and can in no way be brought in  
accord with the general spirit of amicable relations

existing between USSR and Japan. The inappropriate  
way of handling on the part of the torpedo-boat No.4 is  
confirmed by the fact, that Mr. Ogata, the Japanese  
Consul at Petropavlovsk on Kamchatka, had on the  
14th of July informed Mr. Tikhonoff, the diplomatic  
Agent of the Commissariat for Foreign Affairs, on  
ground of the instructions received by Mr. Ogata from  
the Foreign Office, that the Japanese torpedo-boats  
were forbidden to undertake towards the Soviet ships  
any steps similar to those, which have taken place in  
this case.

In accordance with the fact stated above, the  
Government of USSR naturally could not consent to  
the subsequent proposal brought forth by the Japanese  
Imperial Ministry for Foreign Affairs to the effect of an  
exchange of the two abovementioned ships, as this  
would mean a justification of the unlawful act of the  
torpedo-boat No.4.

Both cases cannot be compared with each other,

as in the first case there were legitimate measures of the competent administrative authorities, which left it up to the judicial authorities to make a decision, the result of which was the announcement of a moderate fine already in the first instance of the court and a quick release of the Japanese vessel, whereas in the second case there was a voluntary act of seizure and detention of the Soviet ship until the present time, as moreover no charge was presented against it. The Government of USSR deems it therefore not proper to connect in any way these two quite different cases.

The Government of USSR cannot also leave without notice the abnormal fact that the taking of the crew off the ship and its landing on August 2nd on Soviet territory was effected without any previous consultation with the Soviet Government and in contradiction to the statement of Mr. Shigemitsu, Vice-Minister for Foreign Affairs, which he made on August 2d at the meeting with Mr. Yureneff, the Am-

bassador of USSR at Japan, to the effect that the taking off and landing of the crew would not be effected without the consent of the Government of the Soviet Union.

The Government of the Soviet Union once again states that it considers the detention of the trawler "Aleksei Peshkoff" still being held in Japan, as an act unlawful in every respect and lodges in this connection a strong protest.

The Government of USSR categorically insists on the immediate release of the said Soviet ship and reserves the right to present in future a demand for compensation of the corresponding Soviet authorities of the losses incurred by them due to the impossibility to exploit the trawler "Aleksei Peshkoff", which are estimated at 300 thousand roubles, whereas the loss resulting from the ship lying idle amounts to 1. 200 roubles per day.

I avail myself of this opportunity to express to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

R. Yourenoff  
His Excellency,  
Count Uchida,  
Minister for Foreign Affairs.

謹 拙 本ヘ一ニ申記れ候「Government」、「Japanese」、「soviet」、「2d」せんべく「Government」、「Japanese」、「Soviet」、「2nd」の謹づる所候  
べく、詰該個所が多シたる個々シタルコト無クナラ侵シタリト  
かア、本謹注めハヤ一聴取承け候事ニムレーダ。

(右記)

(「アーネクヤイ、ペシコフ」號ノ拿捕ハ關スル件)  
以書翰啟上致候陳者本年七月堪察加東海岸「ナハチウオ」  
岬附近公海ニ於テ漁業ニ從事中ノ日本漁船第一號平丸ガ  
「ハ」聯邦トロール船「アーネクヤイ、ペシコフ」號乗組ノ  
同聯邦國境警備官憲ノ爲拿捕セハシタハリ關聯ハ日本驅逐  
艦ガ右「アーネクヤイ、ペシコフ」號ヲ拿捕シタル事件ニ關  
シ九月十四日附貴翰ヲ以テ縷々御申越ノ趣敬承致候

外交關係  
日ソ  
七

然ルニ其ノ後第二琴平丸事件ハ貴國側裁判ニ附セラレ船長ハ有罪トシテ罰金ヲ課セラレ且國外追放及入國禁止處分ニ附セラレタル處右「ソ」側官憲ノ不法ナル措置ガ帝國政府ノ到底容認シ得サル處ナルハ以上ノ説明ニ依リ了知セラルベク候

貴大使ニ於テハ我驅逐艦ノ執リタル措置ヲ以テ國際法ニ反スルモノト爲シ日「ソ」間友好關係ノ精神ニ一致シ得サルモノト述ヘラレ居ルモ右驅逐艦ノ行動ハ貴國官憲ノ執リタル不法行為ニ起因スル義<sup>(義)</sup>ナルニヨリ其ノ非難ハ貴國側ノ措置ニ對シテコソ向ケラルヘキモノト思料致候尙貴翰ニハ在「ペトロパウロフスク」緒方領事ガ外務部出張員「ティー」ホノフ氏ニ對シ日本驅逐艦ガ「ソ」聯邦船舶ニ對シ前述ノ如キ措置ヲ執ルコトヲ禁ゼラレ居ルカ如ク述ヘタル旨記述セラルモ緒方領事ハ右ノ如キ言明ヲ爲シタルコト無キ趣ニ候

本件ニ關シ帝國外務省ハ兩國ノ友好關係ヲ考慮シテ圓滿解決方法ニ付貴大使ノ考慮ヲ求メタルモ貴國政府ノ應諾スル處トナラザリシハ本大臣ノ遺憾トスル處ニ有之以上述フル處ニ依リテ明ナルカ如ク「アレクセイ、ペシコフ」號ノ拿

以上ノ事情ニ依リ帝國政府トシテハ第二琴平丸ニ對スル「ソ」聯邦官憲ノ不法ナル措置ニ對シ依然嚴重抗議スルト共ニ同船ニ對スル裁判ノ決定取消ヲ重テ要求シ且同船ノ蒙リタル損害賠償ヲ要求スル權利ヲ留保スルモノニ有之「アレクセイ、ペシコフ」號ニ關スル「ソ」聯邦政府ノ抗議及損害賠償ノ要求ニ對シテハ之ヲ拒絶セザルヲ得サルモノニ使ニ説明シタル通ニ候

以上ノ事情ニ依リ帝國政府トシテハ第二琴平丸ニ對スル「ソ」聯邦官憲ノ不法ナル措置ニ對シ依然嚴重抗議スルト共ニ同船ニ對スル裁判ノ決定取消ヲ重テ要求シ且同船ノ蒙

リタル損害賠償ヲ要求スル權利ヲ留保スルモノニ有之「アレクセイ、ペシコフ」號ニ關スル「ソ」聯邦政府ノ抗議及損害賠償ノ要求ニ對シテハ之ヲ拒絶セザルヲ得サルモノニ

有之候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

393  
昭和8年9月16日  
廣田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

ペシコフ号事件に関するユレネフ大使と重光  
次官との会談要領について

付記

昭和九年五月十八日発廣田外務大臣より在ソ

連邦大田大使宛電報第一五五号

ペシコフ号問題解決のための交渉経緯について

本省 9月16日後5時発  
第二五八號

往電第二五五号ニ関シ

本件「ユレーネフ」大使及重光次官會談要領右ノ通り

先ツ「ユ」大使ヨリ日本驅逐艦公海ニ於テ「ペシコフ」

ヲ拿捕シタルハ國際法ニ反シ両國ノ親善關係ヲ害スル行爲ニシテ右拿捕ト密漁中抑留セラレタル琴平丸ノ事件トハ趣

捕ハ「ソ」側ノ第二琴平丸ニ對スル不法ナル措置ニ起因スルモノナルガ故ニ帝國政府トシテハ「アレクセイ、ペシコフ」號ノ問題ノミヲ切離シテ解決セントスル貴國政府ノ要求ニハ應シ得サル次第ニ候

尙又前記貴翰ニ於テ「アレクセイ、ペシコフ」號乗組員ノ送還ハ「ソ」聯邦政府ト豫メ打合スル處無ク又重光次官ノ言明ニモ反シテ執行セラレタル旨御申越有之タル處右ハ船舶押留地點ガ交通不便ニシテ食糧ノ補給等極メテ困難ナルニ鑑ミ人道的見地ヨリ乗組員ノミ「ソ」聯邦領ニ送還シタルモノニ有之又重光次官ハ右送還ニ關スル帝國政府ノ決定ヲ参考トシテ貴大使ニ通報シタルモノニシテ貴大使ノ右ノ如キ申越ガ甚シキ誤解ナルコトハ八月三日同次官ヨリ貴大使ニ説明シタル通ニ候

「ユ」大使ハ損害賠償ハ今直ニ要求スルモノニアラスシテ將來要求スル権利ヲ留保スト云フニアリ「ペ」号ノ書類ニヨリテ琴平丸ノ抑留力不当ナラハ何故右書類ヲ「ソ」側ニ引渡スコトヲ拒絶セラル、ヤ日本側ハ共同調査ヲ主張セラル、モ右ハ國家ノ主権ト一致セス又「ソ」側裁判ノ決定ニ對シ日本側ハ強力ヲ以テ対抗シタル次第ナルカ裁判ノ判決ト駆逐艦ノ強力行使ヲ同時ニ帳消シテ事件ヲ解決スヘントノ日本側提議ニハ同意不能ナリト述ヘタルニヨリ次官ハ問題ノ根本ハ「ソ」側カ公海ニ於テ日本船ヲ抑留シ之ヲ裁判ニ附シ得ルヤ否ヤノ莫ナル処「ソ」側ノ裁判ハ「オーソリティ」アリトテ國家主権ヲ云々我方共同調査乃至同時釈放ノ提議ニ應セス故<sup>コトサラ</sup>ニ事態ヲ紛糾セシメタル感アルハ遺憾ナリ「ペ」号ノ書類ハ共同調査ヲ行ヒタル後返却スルコトニ異議ナシ琴平丸ハ控訴シタル筈ナレハ控訴ニテ公正ナル判決アラハ事件解決ノ途モ見出サル、訳ナリト述ヘタルニ「ユ」大使ハ日本側ニ於テ先ツ「ペ」号ヲ釈放シテコソ琴平丸ニ對シ情状酌量ノ理由モ生スヘケレド裁判ノ判決ニ對シ強力ヲ行使スルカ如キハ決シテ裁判ヲ有利ニスルモノニアラスト述ヘ次官ハ之ニ對シ事態ノ紛糾カ一ニ「ソ」側

トニ付<sup>コトサラ</sup>同意不能ナリト述ヘタルニヨリ次官ハ問題ノ根本ハ「ソ」側カ公海ニ於テ日本船ヲ抑留シ之ヲ裁判ニ附シ得ルヤ否ヤノ莫ナル処「ソ」側ノ裁判ハ「オーソリティ」アリトテ國家主権ヲ云々我方共同調査乃至同時釈放ノ提議ニ應セス故<sup>コトサラ</sup>ニ事態ヲ紛糾セシメタル感アルハ遺憾ナリ「ペ」号ノ書類ハ共同調査ヲ行ヒタル後返却スルコトニ異議ナシ琴平丸ハ控訴シタル筈ナレハ控訴ニテ公正ナル判決アラハ事件解決ノ途モ見出サル、訳ナリト述ヘタルニ「ユ」大使ハ日本側ニ於テ先ツ「ペ」号ヲ釈放シテコソ琴平丸ニ對シ情状酌量ノ理由モ生スヘケレド裁判ノ判決ニ對シ強力ヲ行使スルカ如キハ決シテ裁判ヲ有利ニスルモノニアラスト述ヘ次官ハ之ニ對シ事態ノ紛糾カ一ニ「ソ」側

## (付記)

本省 昭和9年5月18日後8時発

往電第十四號ニ閲シ

其後「ソ」大使館ヨリ琴平丸ニ對スル罰金刑ヲ取消シ沒収物ヲ返還スヘキニ付其前ニ「ペシコフ」號ヲ釋放セラレタキ旨回答アリ之ニ對シ我方ヨリ罰金刑ヲ取消シ乍ラ附加刑タル船長ニ對スル退去及入國禁止命令ヲ存置セシムルノ不合理ナルコトヲ指摘シ屢次交渉シタル処「ソ」側ハ我カ主張ヲ認メ原判決全部ノ撤回ヲ約スルニ至レリ茲ニ於テ「ペシコフ」號ヲ返還スルコトトナリタルカ右實行ニ關シ「ソ」側ハ更ニ同船引取ニ向フヘキ船員ノ大湊迄ノ旅費及大湊浦汐間回航費（「ソ」側調査ニ依レハ二、三千圓）ノ全部乃至一部ヲ日本側ニ於テ負担方申出デ右ハ主義上ノ問題ナリトテ強ク主張シタルガ我方ヨリ「ペ」號ニハ約百噸ノ石炭アリテ回航用トシテ充分ナルコト「ペ」號ハ充分ノ注意ヲ以テ保管シアリ回航用品モ完備シオリ唯清水機械差シ油等補給ノ要アルヘク右ハ日本側ニ於テ支給差支ヘナキコト、同船積載ノ塩魚ハ豫テ海軍側ニ於テ換価処分ニ附シ右代金千七百六十七圓ハ保管シアルニ付回航員ノ經費ハ大部分之

浦汐ニ轉電シ哈府ニ暗送セシム

~~~~~

ノ不誠意ノ態度ニ依ルモノナルコトヲ説述シ「ソ」側「ノート」ニ對シテハ何レ書面ヲ以テ回答スヘシト應酬シ置ケル趣ナリ尚「ソ」側「ノート」ノ内容ハ大要前記「ユ」大使申出ノ趣旨ト同一ナルカ「ペ」号ノ操業不能ヨリ生スル損害三十万留利用不能ニ依ル一日ノ損害ヲ一千二百留ト計上シ居レリ浦汐及「ペトロ」ニ轉電セリ浦汐ヨリ哈府ニ暗送アリ度シ